

第 11 回県政インターネットモニターアンケート集計結果
東京 2020 オリンピック・パラリンピック自転車競技開催に関するアンケート
「ヤングケアラー」に関する意識調査
身近な河川の「川づくり」に関する意識調査

※グラフの中の「n」は、各設問の回答者総数を示す。

※各回答項目の割合（％）は、端数処理の関係上（小数第二位を四捨五入）、合計が 100％にならない場合がある。

○ 東京 2020 オリンピック・パラリンピック自転車競技開催に関するアンケート

東京 2020 オリンピック・パラリンピックの自転車競技（ロードレース、トラック・レース、マウンテンバイク）が静岡県で開催され、県民の皆様の多大な御協力により、大きな事件・事故なく開催することができました。

また、東京 2020 オリンピック・パラリンピックでは、静岡県にゆかりのある選手からメダリストが 15 名出るなど活躍が目立ちました。

そこで、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の感動を活かし、開催後のレガシー（受け継がれていく遺産）として残していきたいと考えております。

今後の取組の参考とさせていただきたいので、アンケートに御協力ください。

○ 「ヤングケアラー」に関する意識調査

「ヤングケアラー」に関する県民意識について把握し、今後の普及啓発等について検討する上で参考にさせていただくため、アンケートに御協力ください。

※このアンケート調査では、「ヤングケアラー」を「年齢や成長の度合いに見合わない重い責任や負担を背負って、本来、大人が担うような介護（障がい・病気・精神疾患のある保護者や祖父母の介護など）や世話（年下のきょうだいの世話など）をすることで、自らの育ちや教育に影響を及ぼしている 18 歳未満の子ども」と定義します。

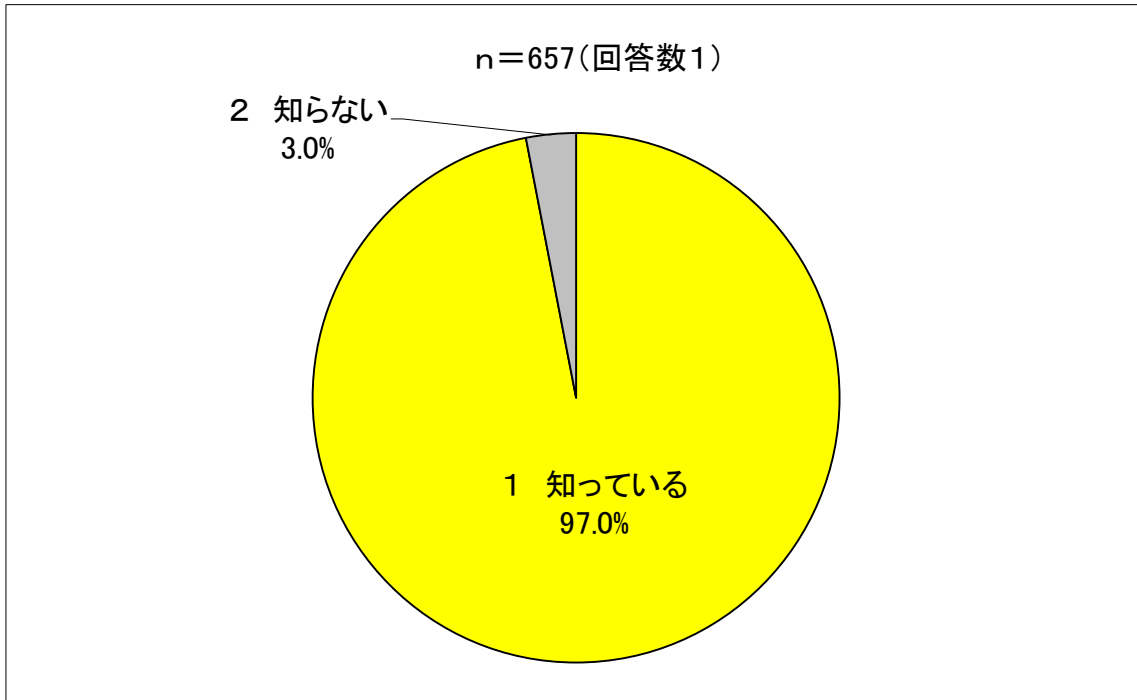
○ 身近な河川の「川づくり」に関する意識調査

県では、総合計画の分野別計画であり、社会資本整備の方向性を定める「美しい“ふじのくに” インフラビジョン」（H30～R3）の実現に向けて、河川整備を進めています。県民の皆様が必要としている河川整備に関するニーズや整備の効果に関する認知度を把握し、河川整備基本方針・整備計画に反映するため、アンケートに御協力をお願いします。

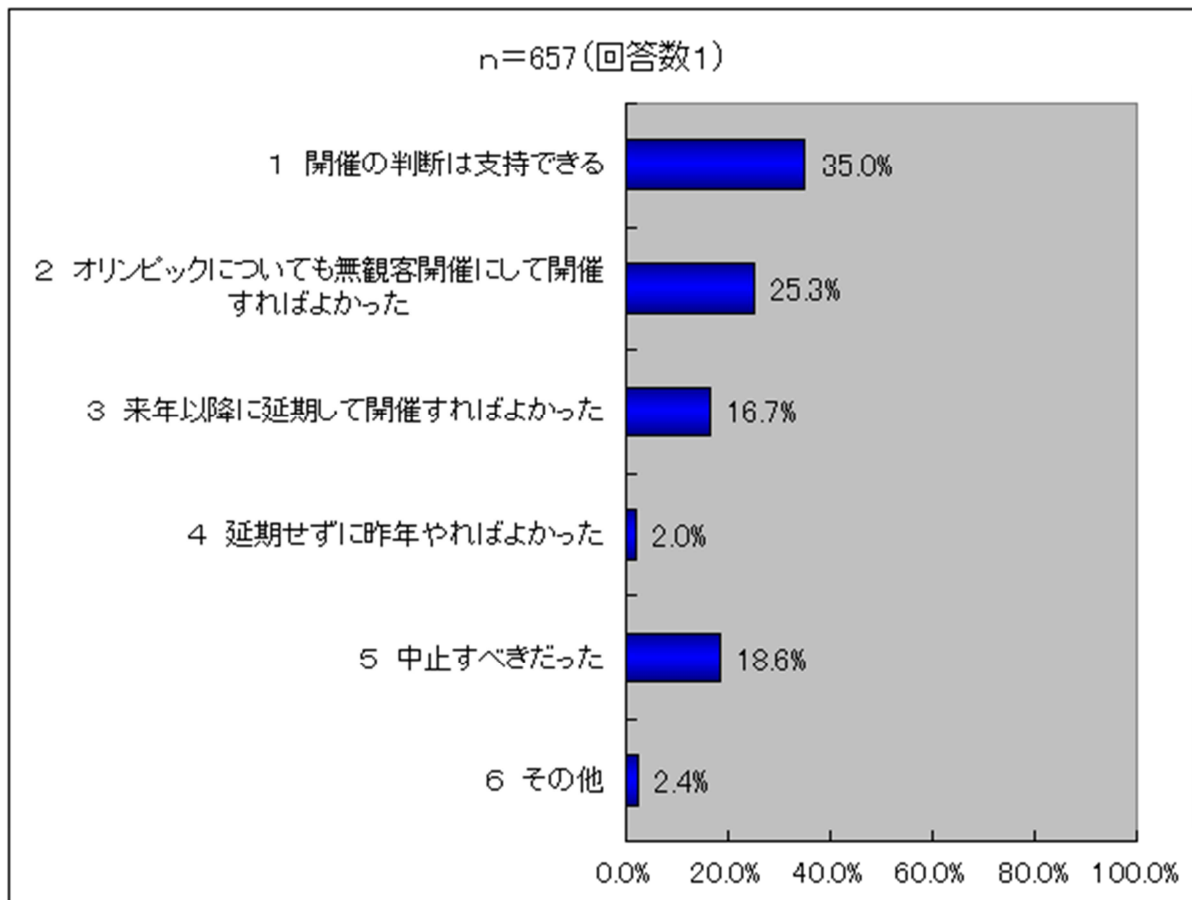
回答者数： 657 人（回答率： 85.7%）			
	カテゴリー名	回答者数	%
性別	男性	297	45.2%
	女性	359	54.6%
	その他	1	0.2%
年代	10代	9	1.4%
	20代	24	3.7%
	30代	87	13.2%
	40代	151	23.0%
	50代	158	24.0%
	60代	114	17.4%
	70代	91	13.9%
	80代	23	3.5%
	90代	0	0.0%
住所	賀茂	10	1.5%
	東部	206	31.4%
	中部	238	36.2%
	西部	202	30.7%
	県外	1	0.2%
職業	自営業	39	5.9%
	会社員	220	33.5%
	公務員	13	2.0%
	パート・内職従事者	125	19.0%
	学生	17	2.6%
	無職	214	32.6%
	その他	29	4.4%

○ 東京 2020 オリンピック・パラリンピック自転車競技開催に関するアンケート

問1 あなたは、静岡県で東京 2020 オリンピック・パラリンピック自転車競技（ロードレース、トラック・レース、マウンテンバイク）が開催されたことを知っていますか。（回答数は1つ）

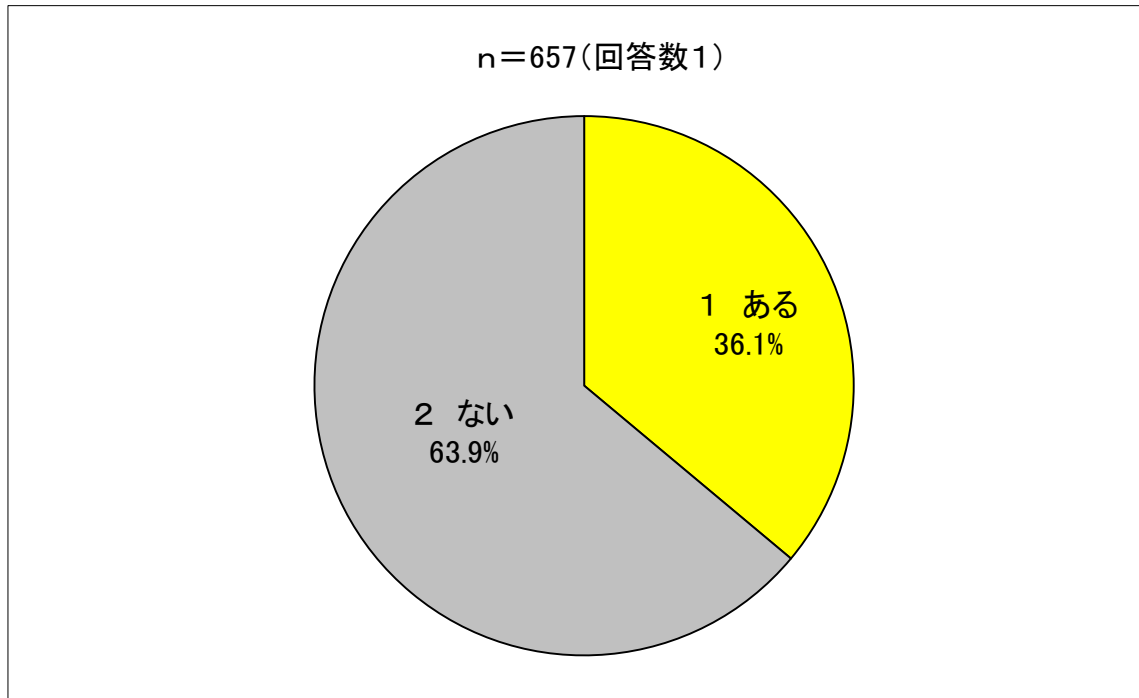


問2 あなたは、東京 2020 オリンピック・パラリンピックがコロナ禍の下で開催されたことについてどのように感じましたか。(回答数は1つ)

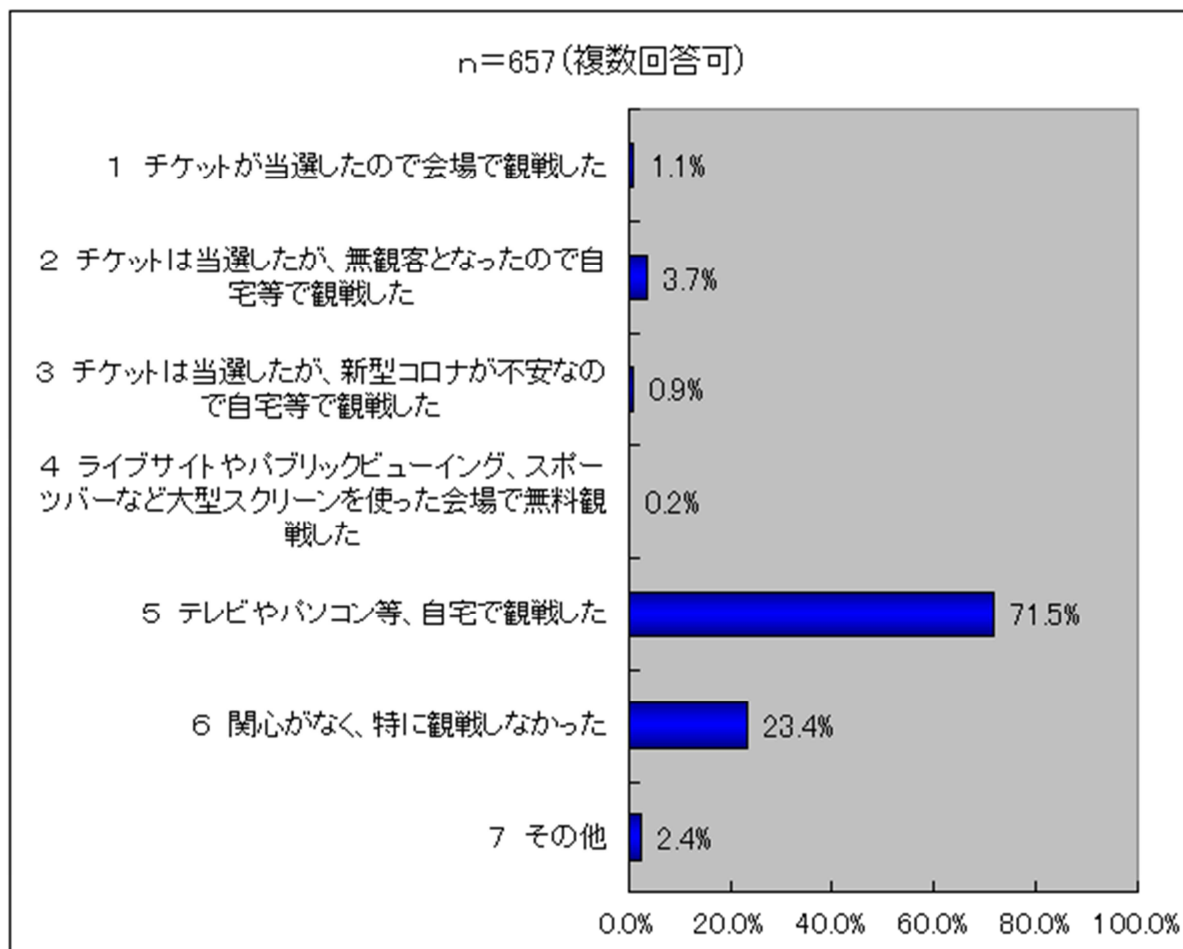


問3 あなたは、自転車競技（トラック・レース、マウンテンバイク、ロードレース、BMX※）に興味はありますか。（回答数は1つ）

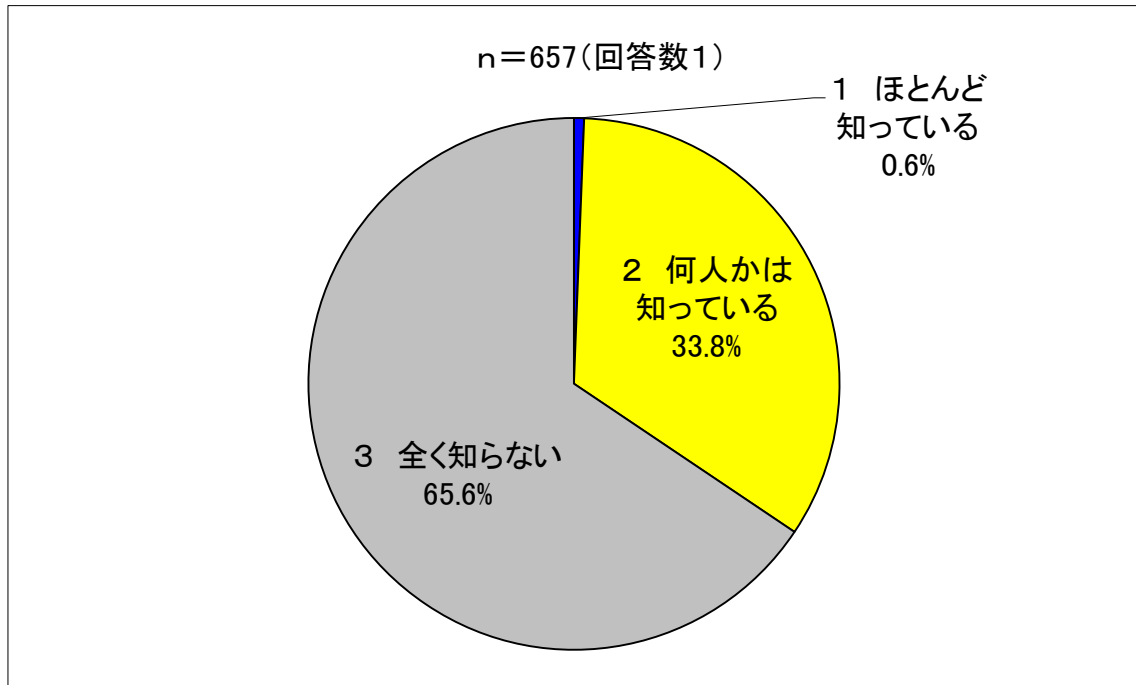
※BMX（バイシクル・モトクロス）とは20インチの自転車に乗って、8人がゲートから一斉にスタートし、300～400mを走行してゴール順を競うレーシングと、様々な形のセクションが設けられたパークの中で、規定時間内にトリックと呼ばれる技の難易度や完成度等を競うフリースタイルパークの2つの種目があります。



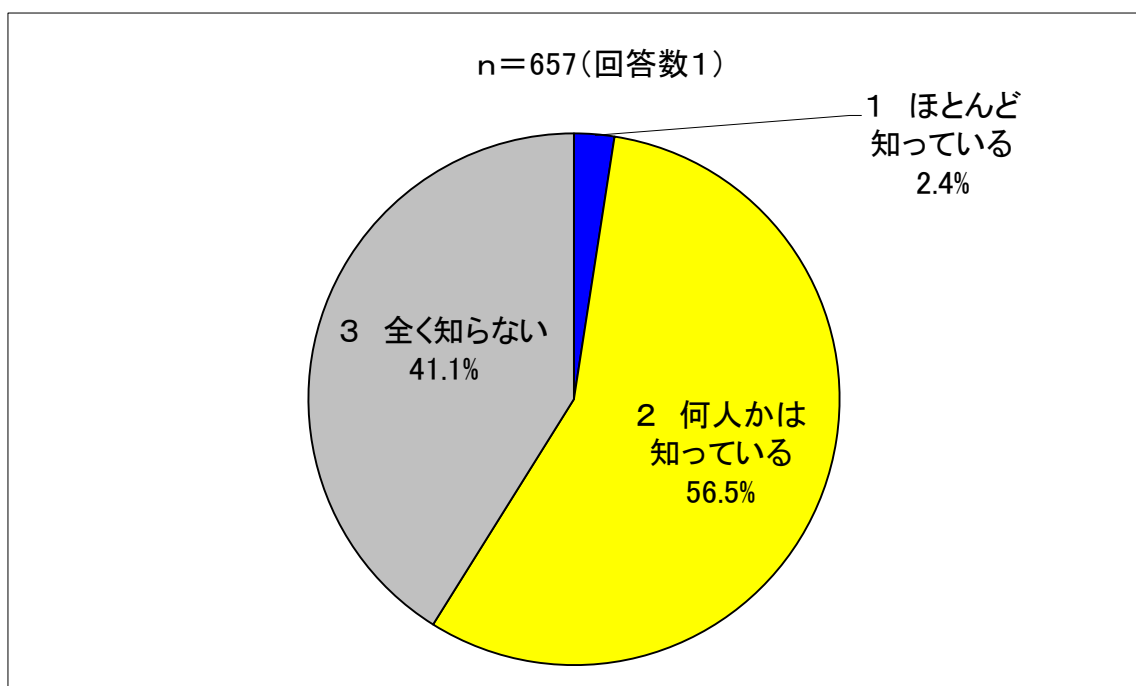
問4 あなたは、東京2020オリンピック・パラリンピックをどのような方法で観戦しましたか。(複数回答可)



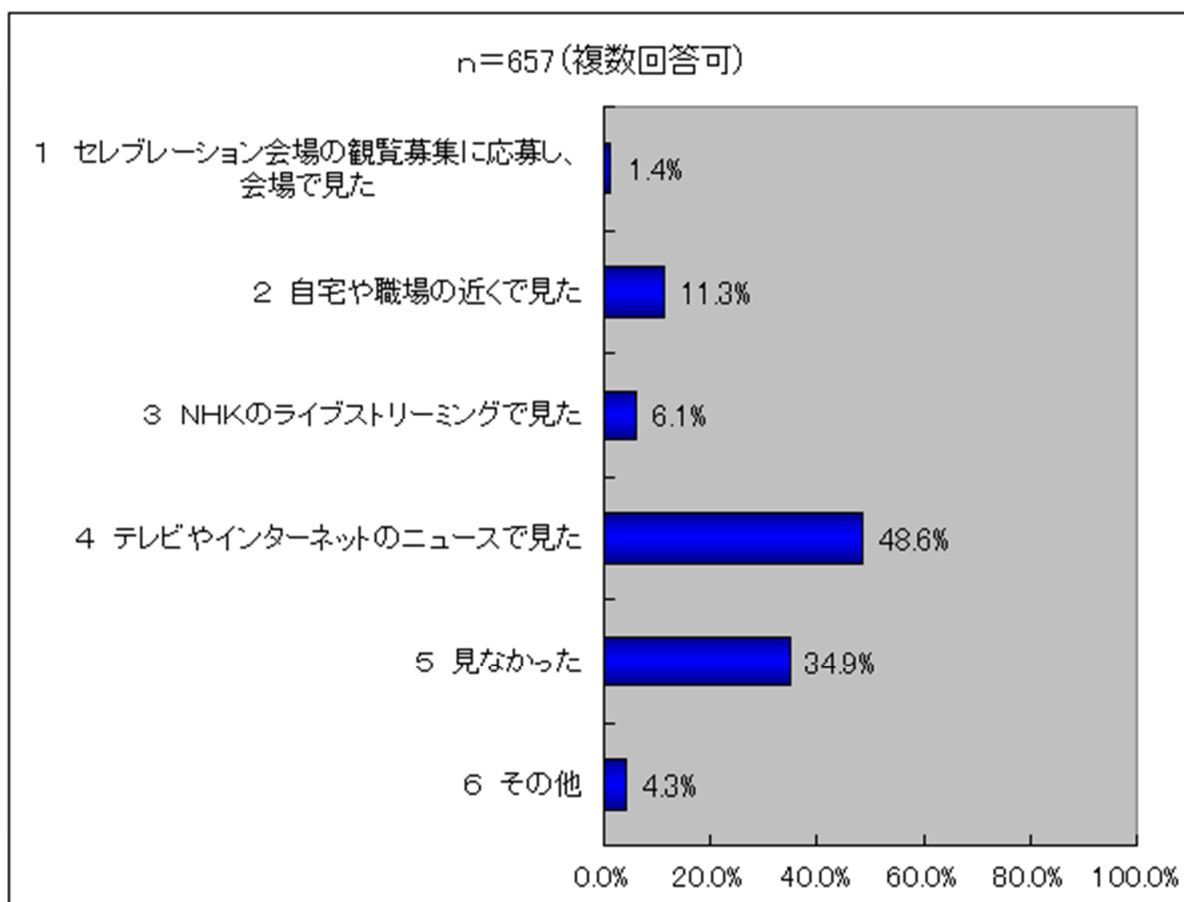
問5 東京2020オリンピック・パラリンピック自転車競技については、オリンピックのロードに4名、トラック・レースが6名、マウンテンバイクが2名、BMXが4名の計16名、パラリンピックで4名の合計20名の選手が出場しました。あなたは自転車競技日本代表選手をどの程度御存知ですか。(回答数は1つ)



問5-2 東京2020オリンピック競技大会に32名、東京パラリンピック競技大会に15名の静岡県にゆかりのある選手が出場しました。あなたは静岡県にゆかりのある選手をどの程度御存知ですか。(回答数は1つ)

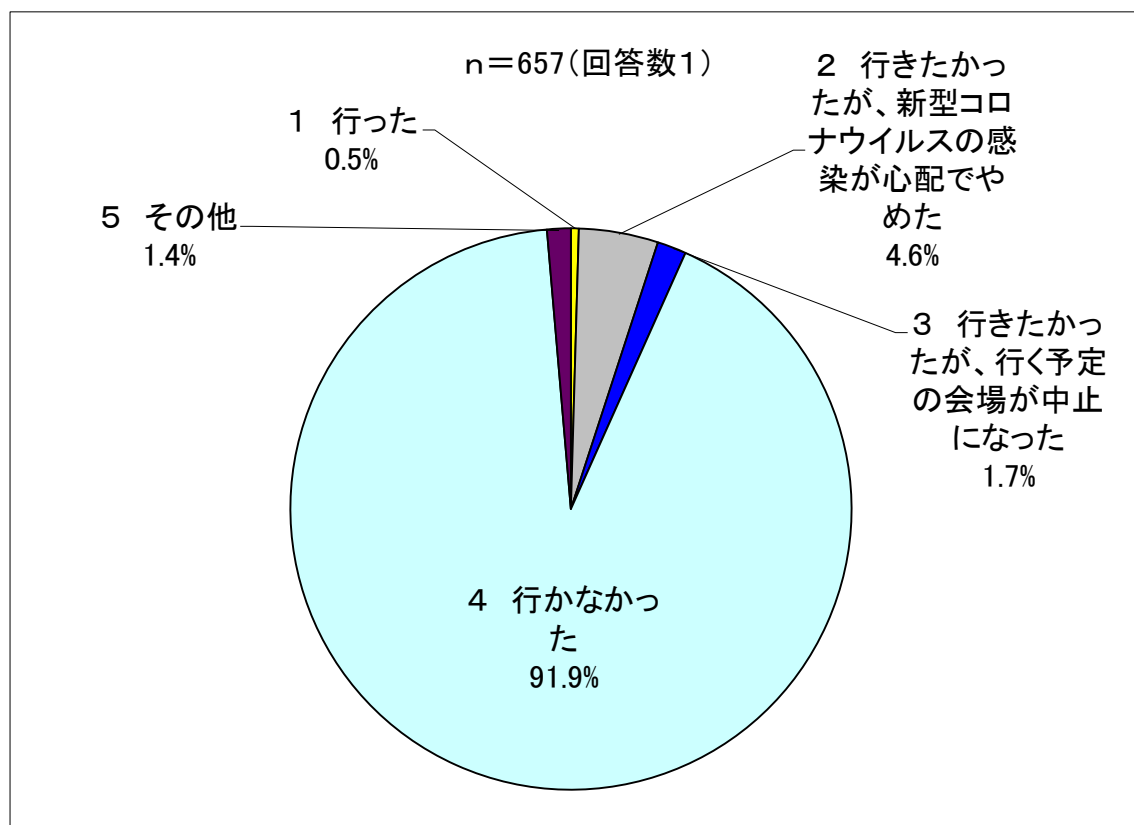


問6 本大会開催前には全国を聖火リレーが巡りました。あなたは静岡県内の聖火リレーについてどのように観覧しましたか。(複数回答可)



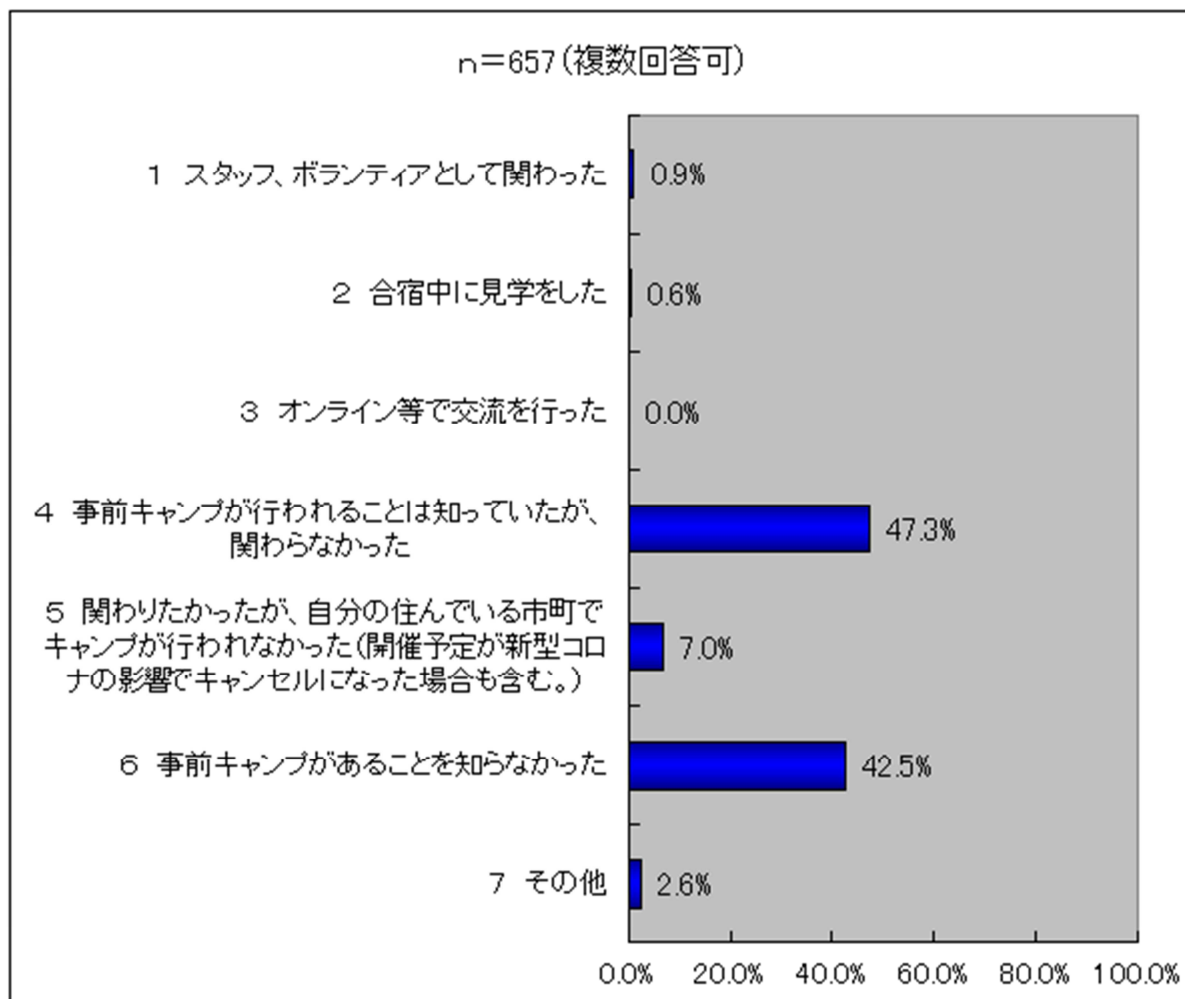
問7 静岡県では、規模を縮小して県内2カ所（御殿場市会場：県民限定、裾野市会場：市民限定）で東京2020ライブサイト※を開催しましたが、あなたはライブサイトに行きましたか。（回答数は1つ）

※東京2020ライブサイトとは、大会組織委員会・県・開催市の共催で、競技会場以外で大型スクリーンを使用した競技中継、ステージイベント、競技体験、公式ライセンス商品の販売等を通して大会を経験できる場所のこと。入場無料。

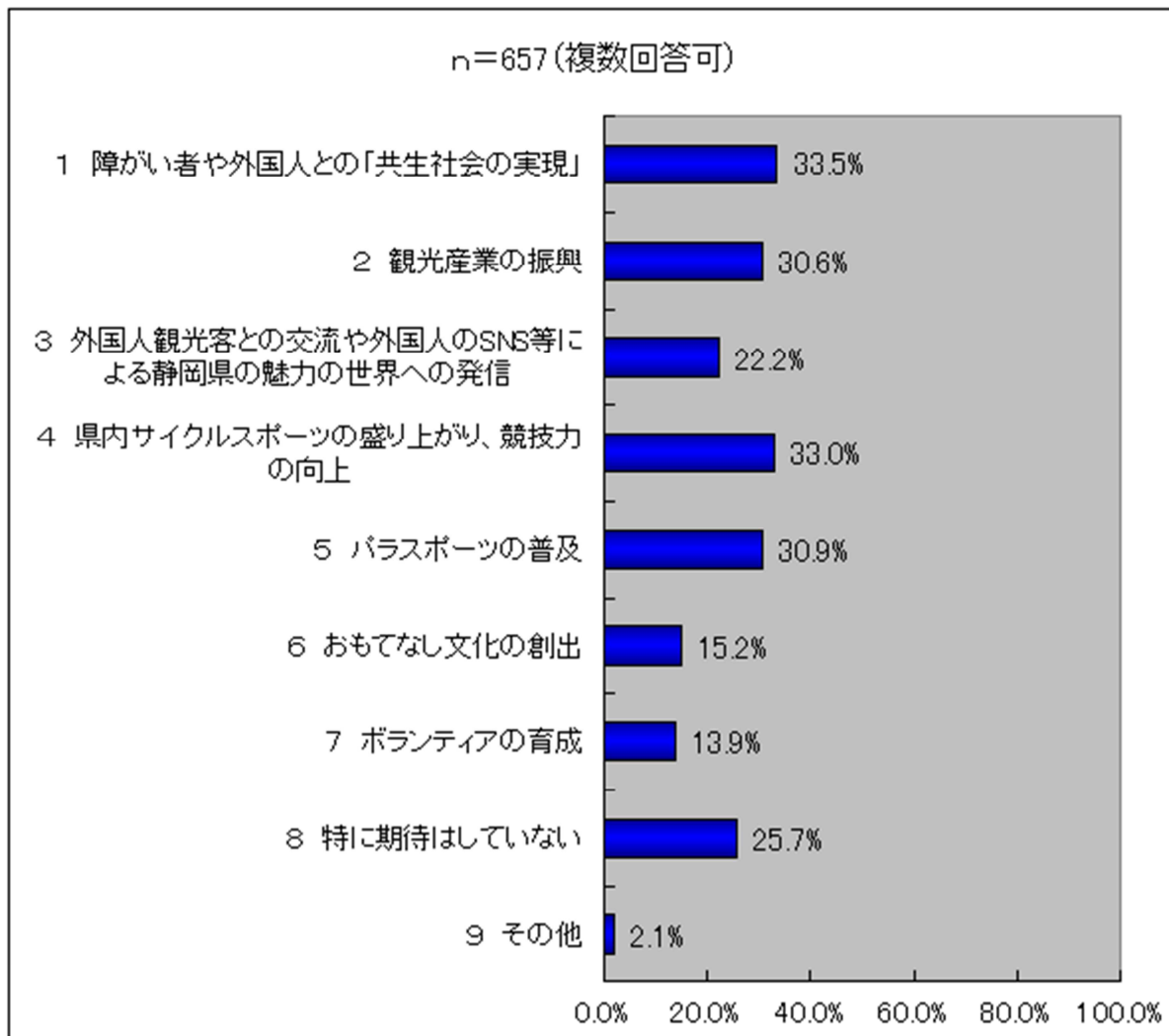


問8 県内各地で実施された事前キャンプ※に、あなたは何か関わりましたか。(複数回答可)

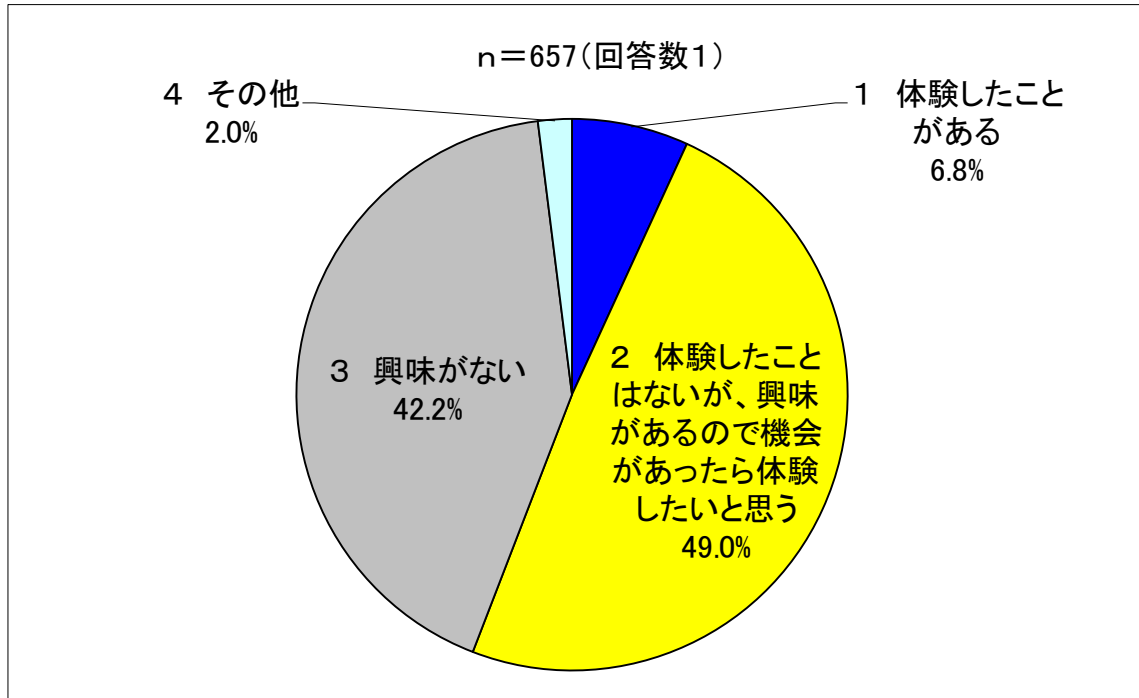
※事前キャンプとは各国のオリンピック委員会やパラリンピック委員会、競技団体等が大会前に時差や気候に順応するため、日本国内で実施するトレーニングキャンプのこと



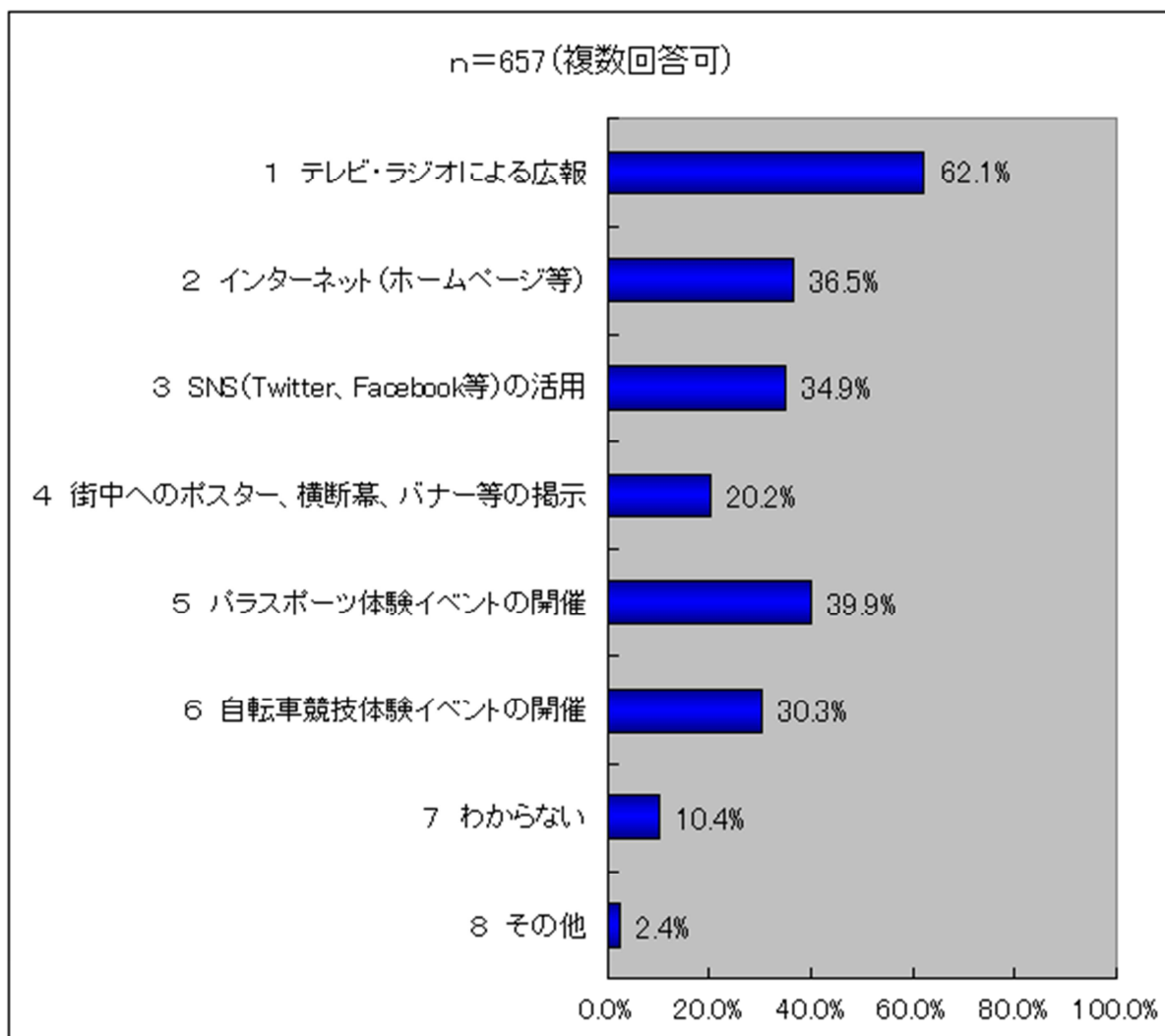
問9 東京2020オリンピック・パラリンピック開催が静岡県に与える効果やレガシー(受け継がれていく遺産)として、あなたが期待していることは何ですか。(複数回答可)



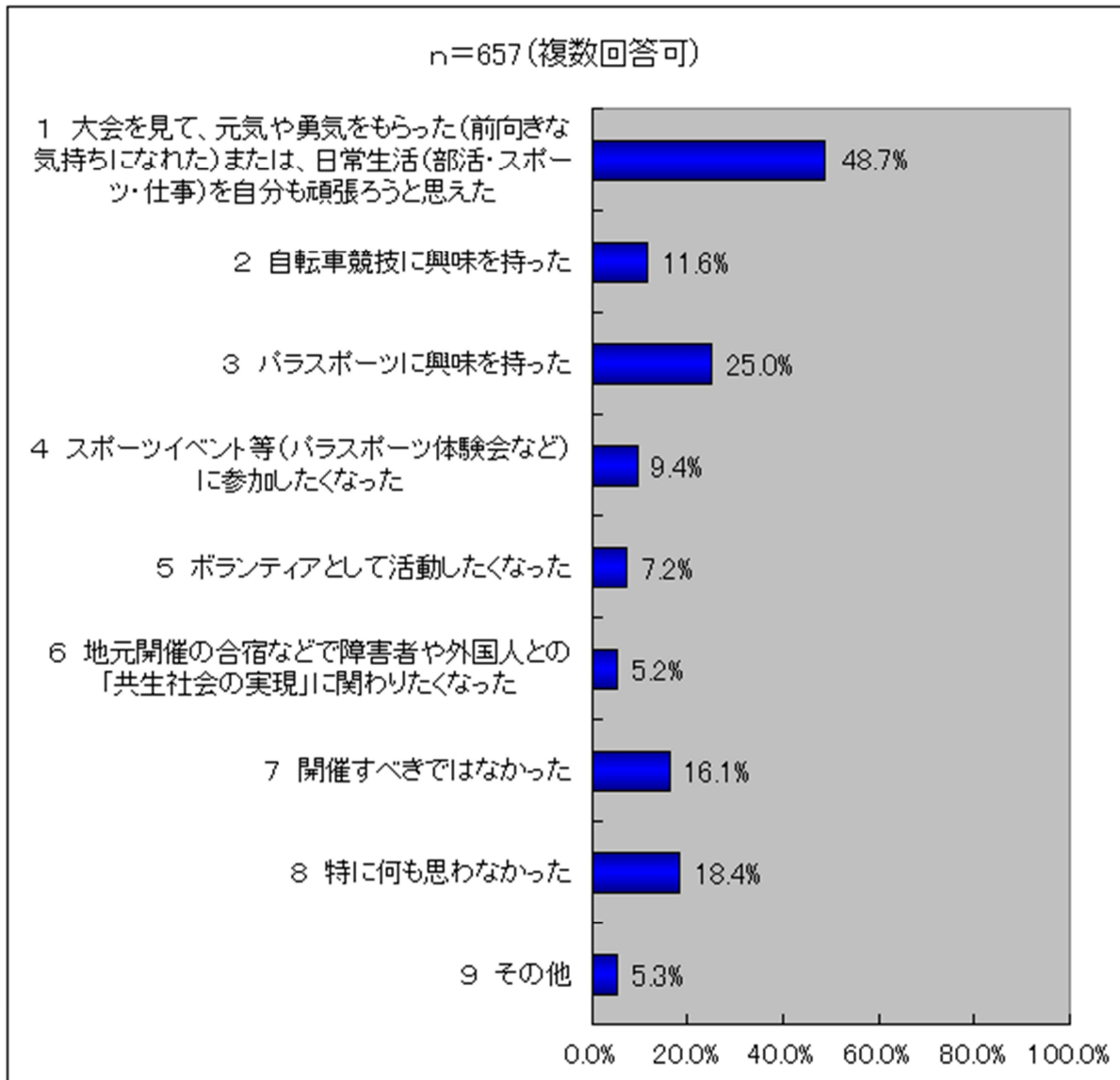
問 10 あなたはパラスポーツ（ボッチャ、パラサイクリング、車いすラグビー等、障害のある人のために考案されたスポーツ）を体験したことがありますか。（回答数は1つ）



問 11 県では自転車競技やパラスポーツ等の情報を積極的に発信していきます。どのような手段が最も効果的だと思いますか。(複数回答可)



問 12 あなたは、東京 2020 オリンピック・パラリンピック開催後どのような気持ちになりましたか。(複数回答可)

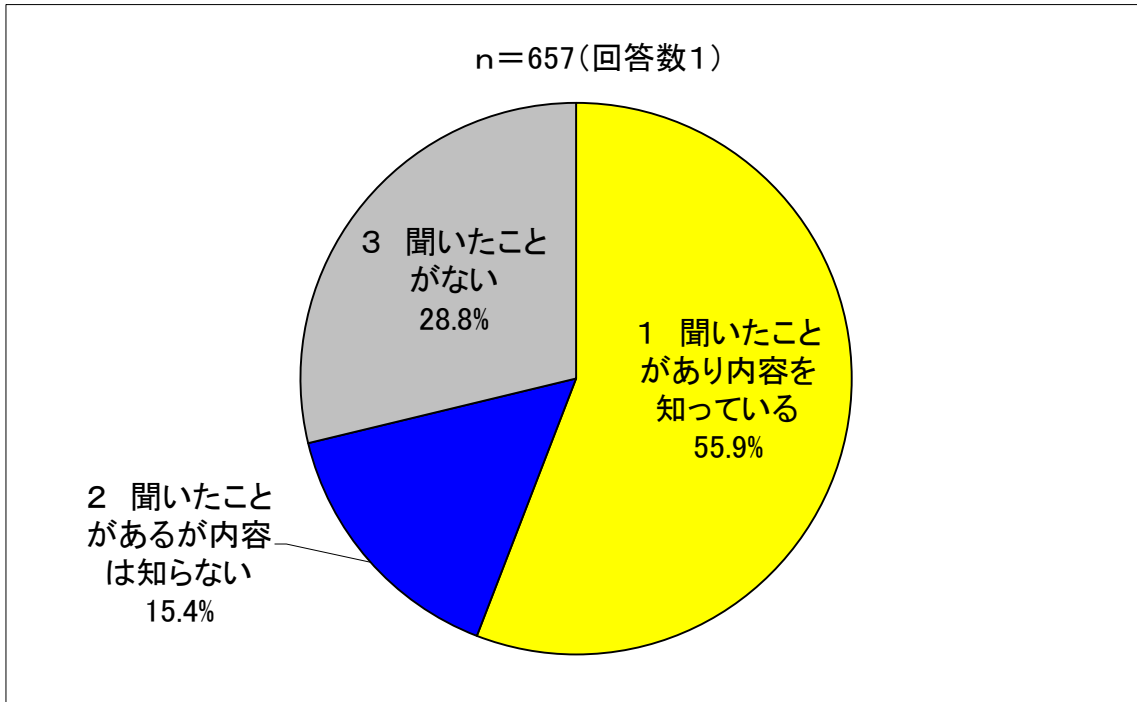


問 13 東京 2020 オリンピック・パラリンピック自転車競技の本県開催(新型コロナウイルス感染症対策を含む)、県内のオリンピック・パラリンピックの盛り上がりについて御意見などがありましたら、御自由にお書きください。(500 字以内)

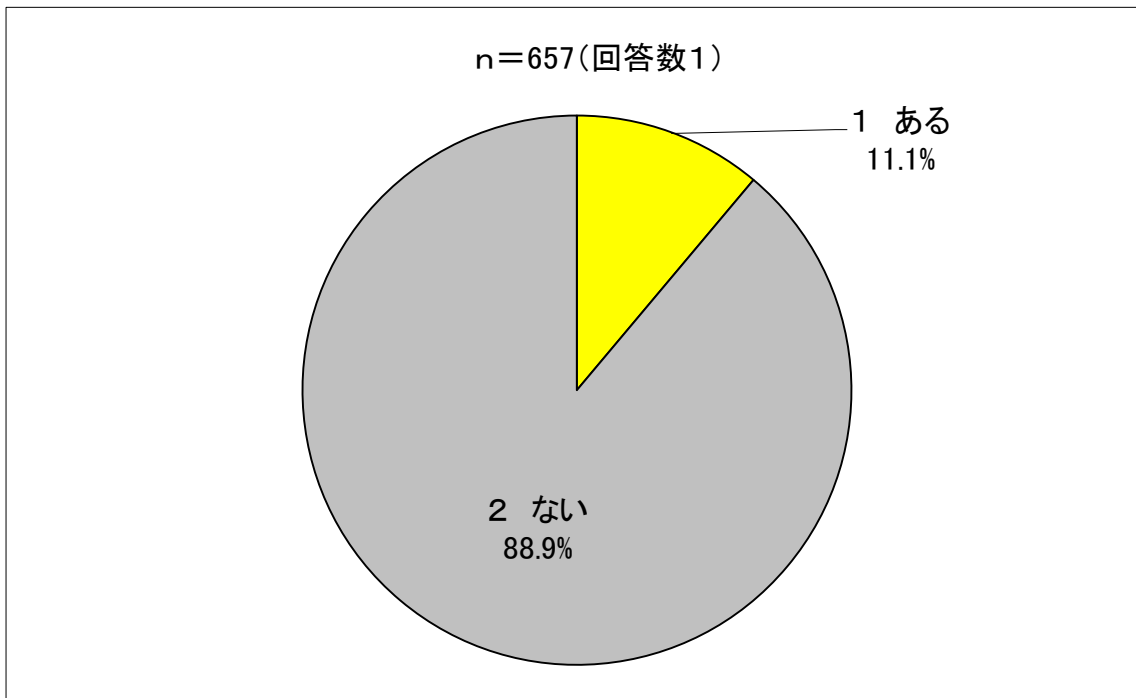
担当課 スポーツ・文化観光部スポーツ局
 オリンピック・パラリンピック推進課
 T E L 054-221-3657
 F A X 054-221-2980
 メール olypara@pref.shizuoka.lg.jp

○「ヤングケアラー」に関する意識調査

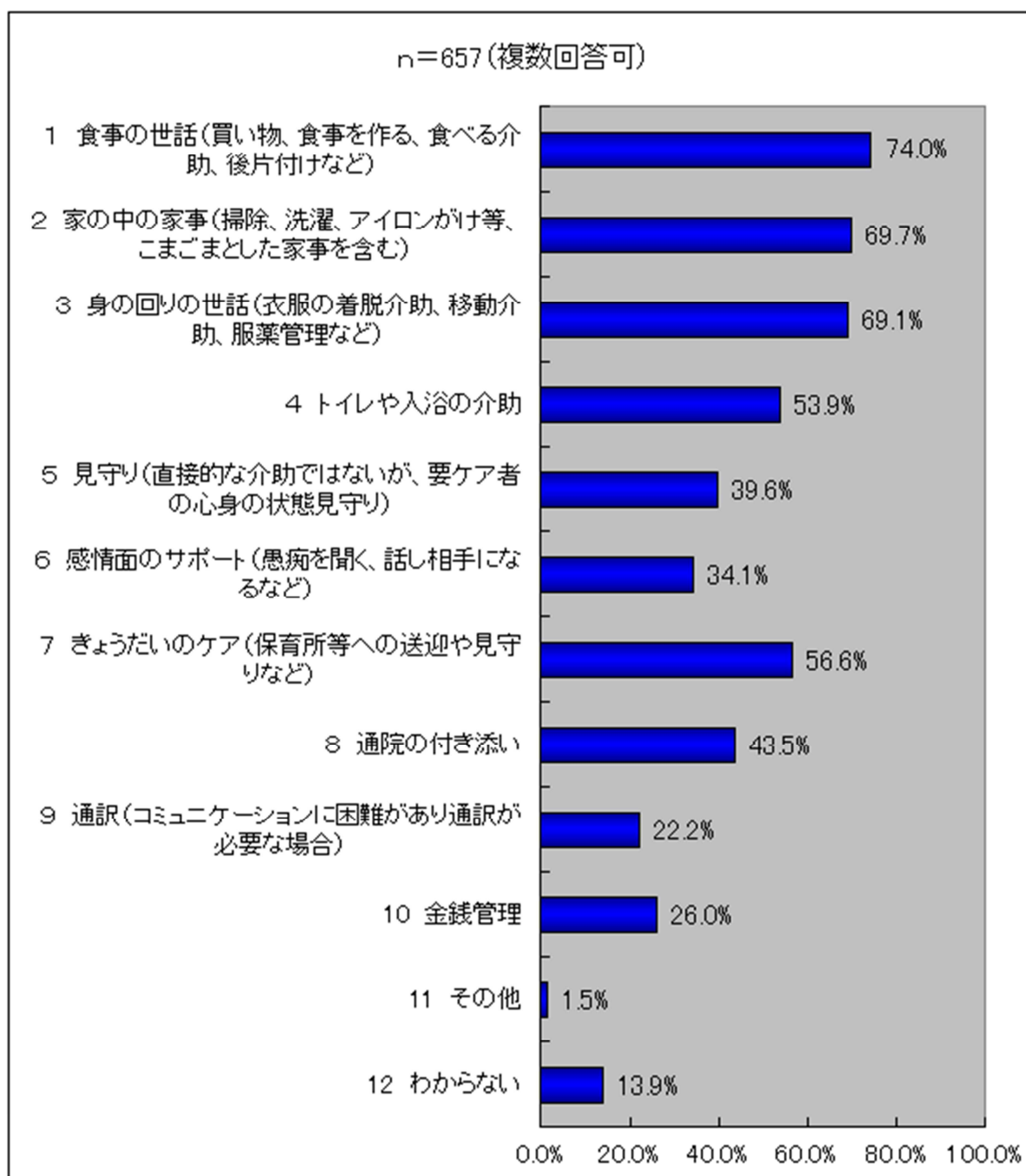
問1 あなたは「ヤングケアラー」という言葉を聞いたことがありますか。(回答数は1つ)



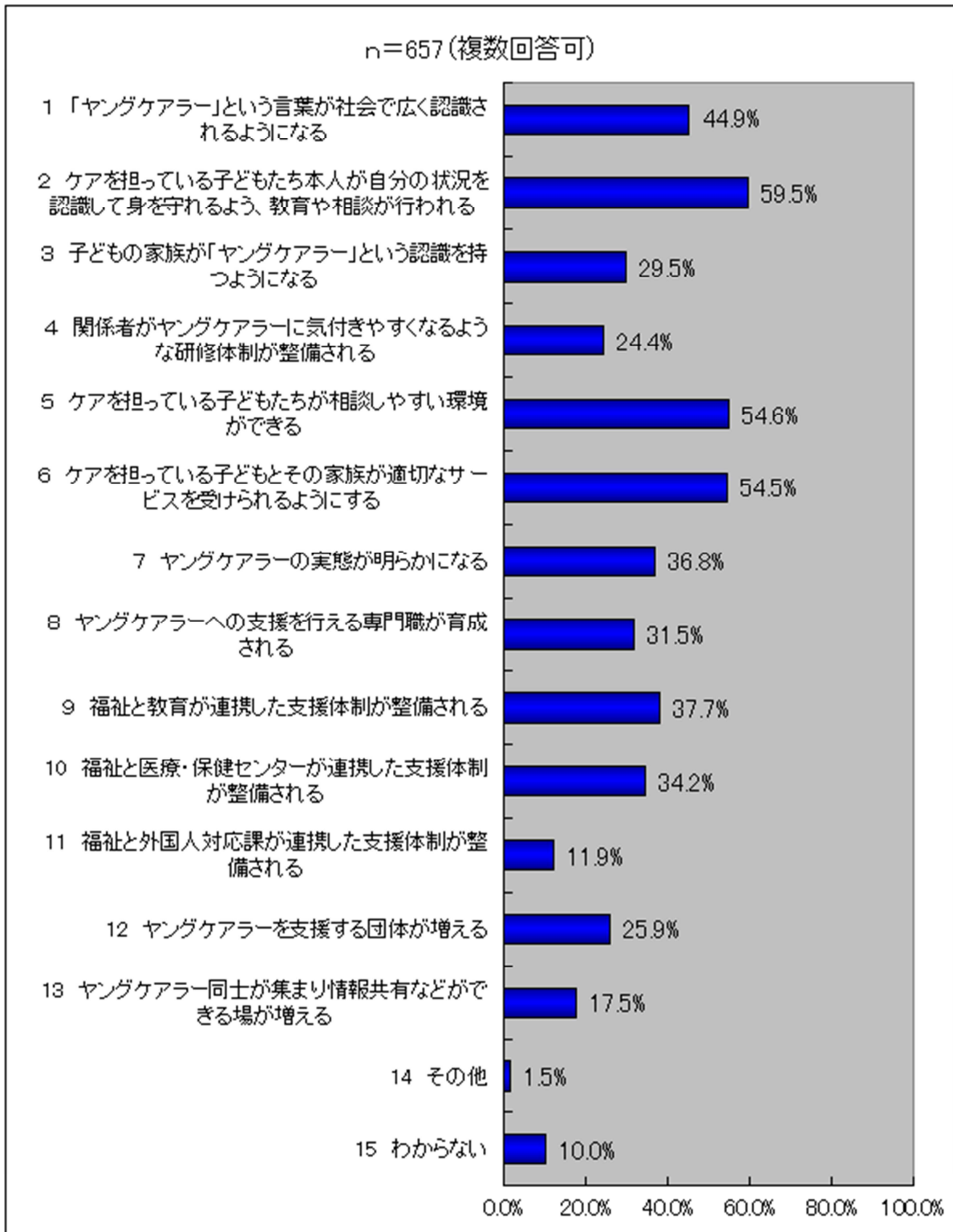
問2 あなたは「ヤングケアラー」だと思ふ子どもを見たことがありますか。(回答数は1つ)



問3 「ヤングケアラー」が行うケア（介護や世話）はどのようなものだと思いますか。（複数回答可）



問4 「ヤングケアラー」に対する支援として社会全体に期待することは何ですか。
(複数回答可)



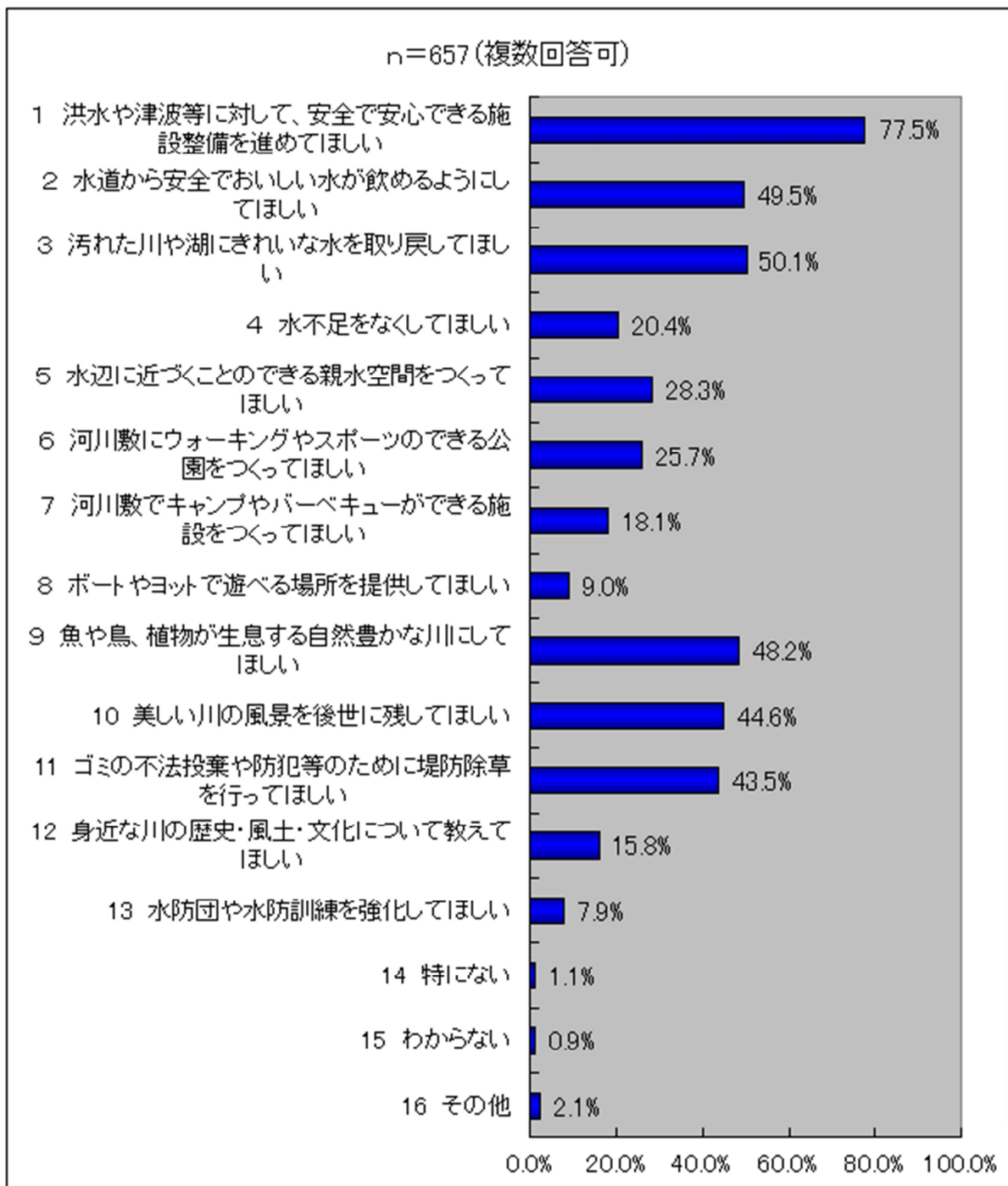
問5 ヤングケアラーについて、御意見等がありましたら、御自由にお書きください。
(500字以内)

担当課 健康福祉部こども未来局こども家庭課
TEL 054-221-2307
FAX 054-221-3521
メール kokatei@pref.shizuoka.lg.jp

○身近な河川の「川づくり」に関する意識調査

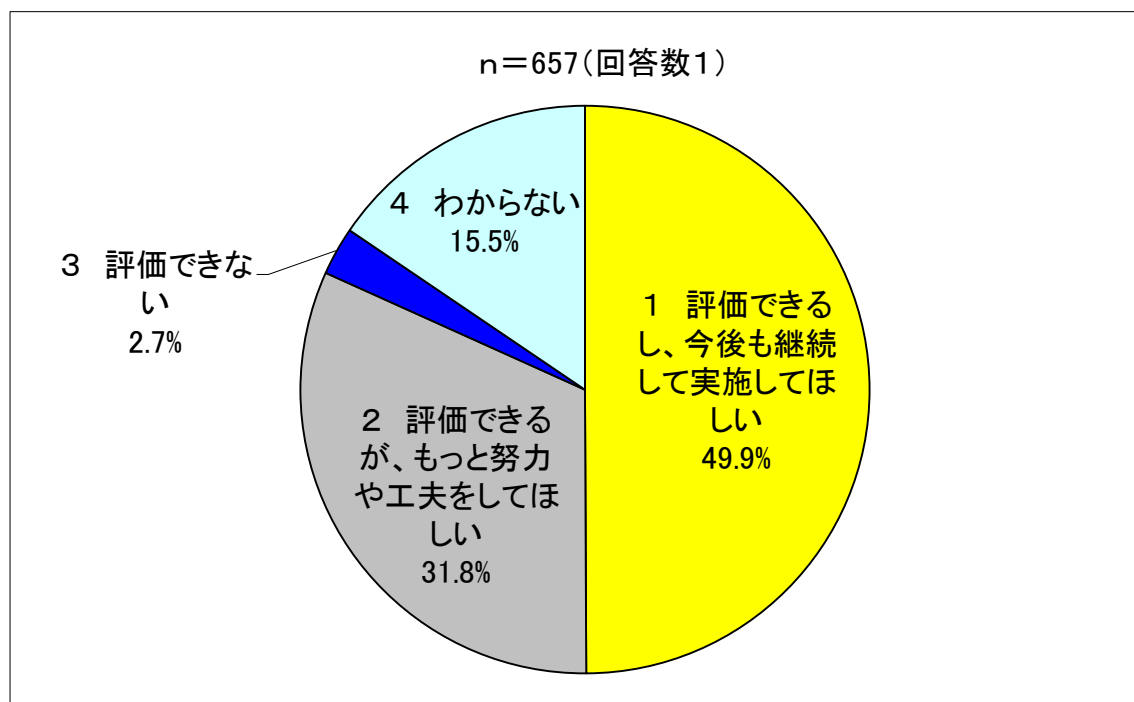
問1 近年、河川を介した「地域づくり」、「人づくり」にかかわる様々な活動が各地で行われるようになり、河川が地域コミュニティを形成するツールの1つとして位置づけられてきていることが注目されています。

県では、「治水」「利水」「環境」の調和のとれた「川づくり」を、地域との連携を図りながら進めています。あなたが今後、河川に望むこと、期待することは何ですか。(複数回答可)

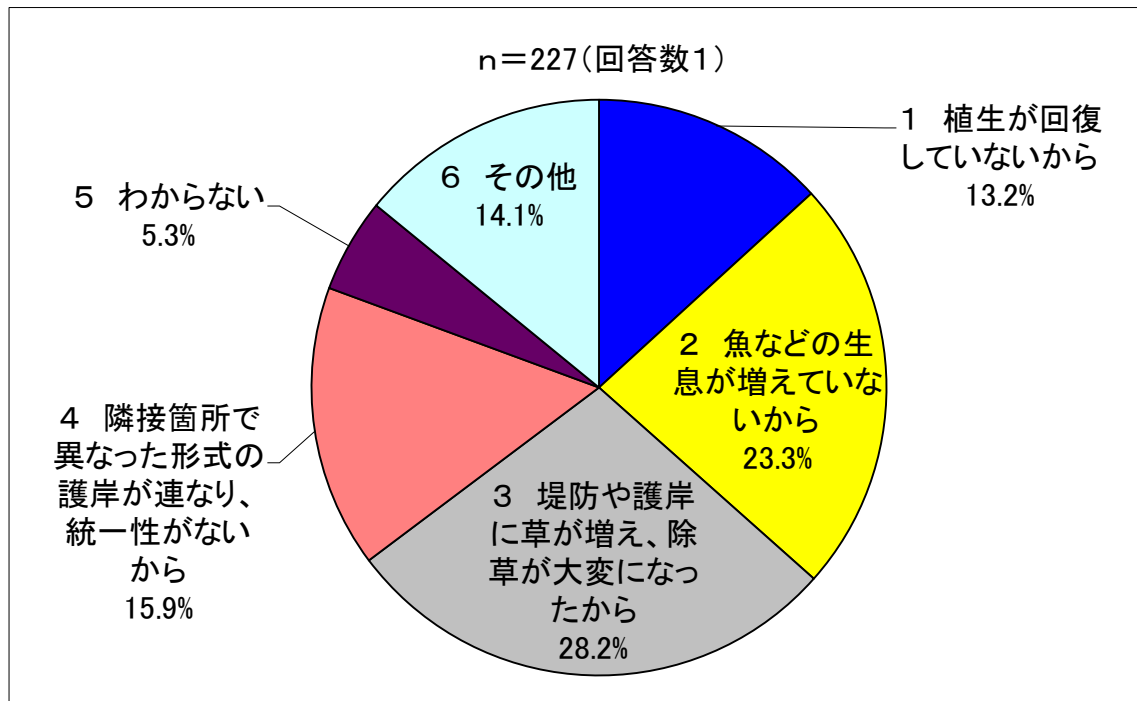


問2 県では、洪水や高潮等から県民の生命・財産を守るため、堤防や護岸工事などの治水事業を順次進めてきました。近年では、この「治水」に加え、河川の「環境」に配慮した「多自然川づくり」を推進し、周辺環境に配慮した護岸ブロックの活用や、瀬と淵の保全・創出、水際部の多様性に配慮するなど、魚類や鳥類、植物などの生息環境への保全・創出に努めてきました。

あなたは、このような近年の「多自然川づくり」に対してどのような感想をお持ちですか。(回答数は1つ)

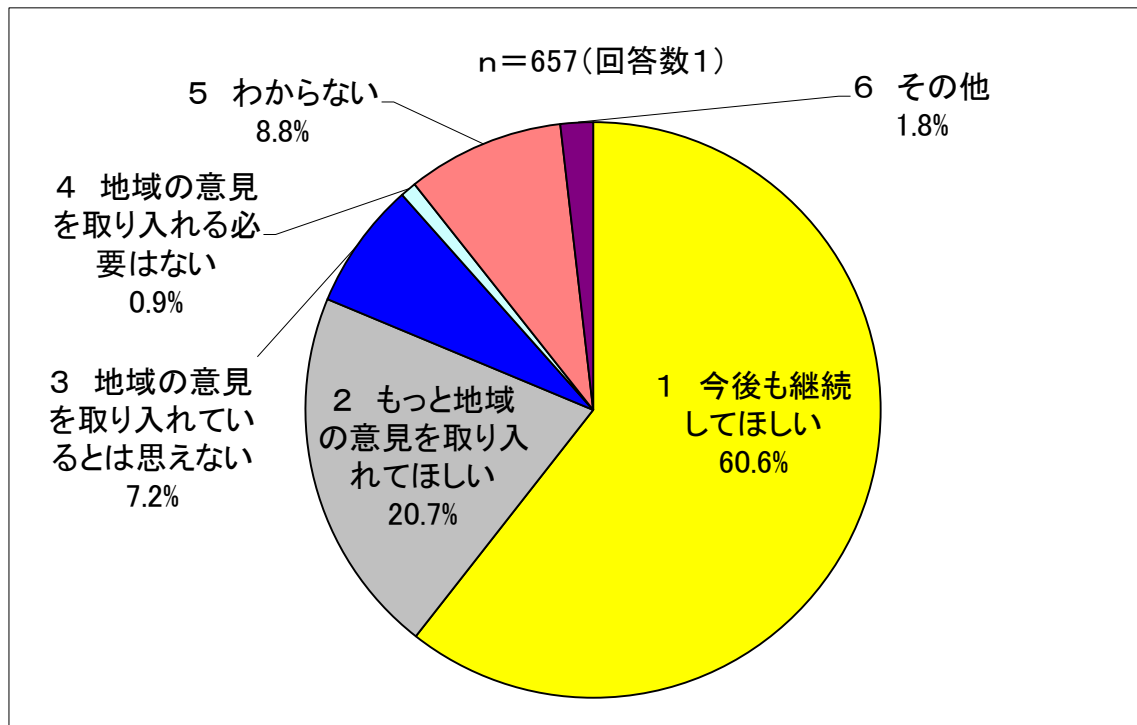


問2-2 問2で選択肢2又は3を選択された方に伺います。なぜそのようにお考えですか。(回答数は1つ)



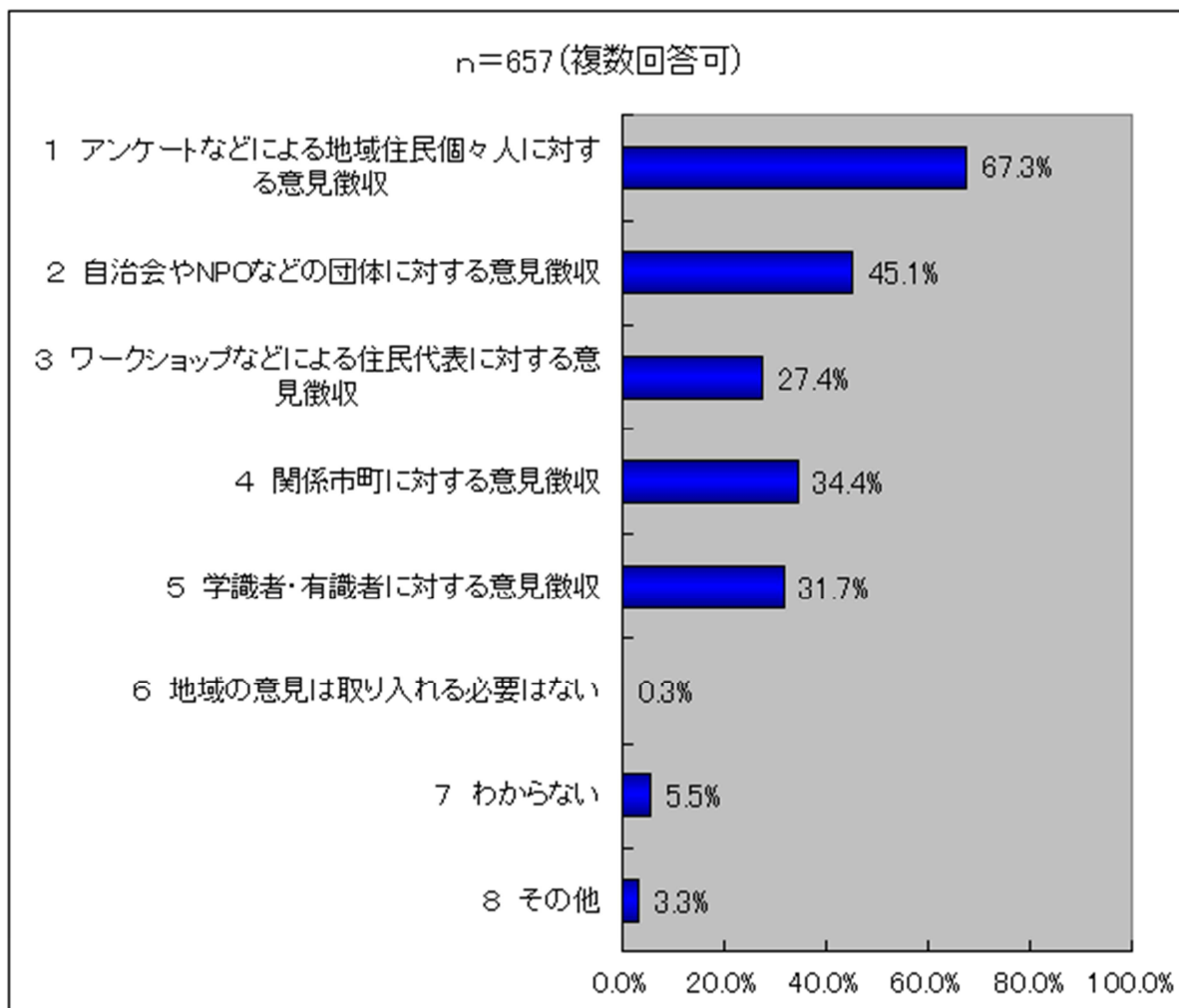
問3 県では、地域住民の河川への関心・協力なくして、より良い「川づくり」の実現は難しいと考えています。このため、「川づくり」を進めていく上で、日頃から最も近くで川と接している地域の方々の意見を反映するために、ワークショップを開催するなど、計画段階から様々な形で地域の意見を取り入れるように努めてきました。

このような県の取組に対して、あなたの考えに最も近いものをお選びください。
(回答数は1つ)



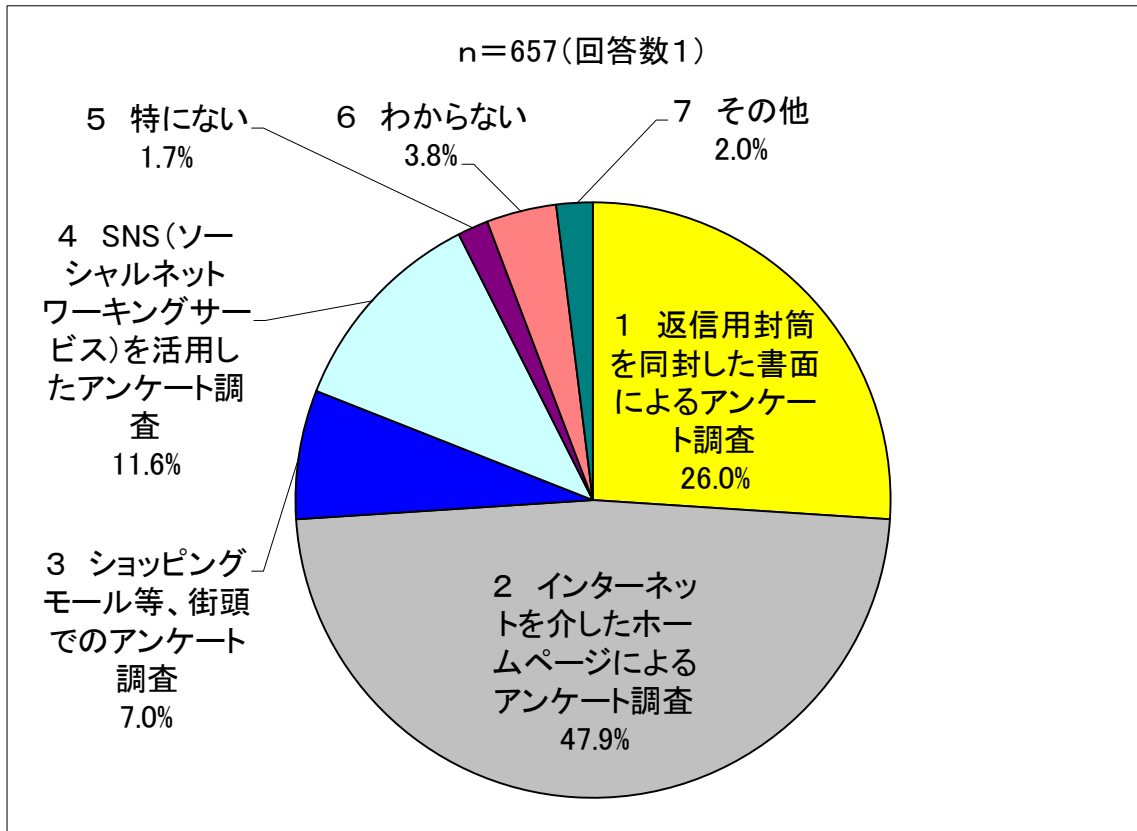
問4 県では、「川づくり」を進めていく上で、地域の声を反映するにあたり、住民アンケート調査やワークショップ等を行ってきました。

あなたは、県が地域の方々の意見をお聴きするにあたり、今後どのような手法を実施したらよいと思いますか。(複数回答可)

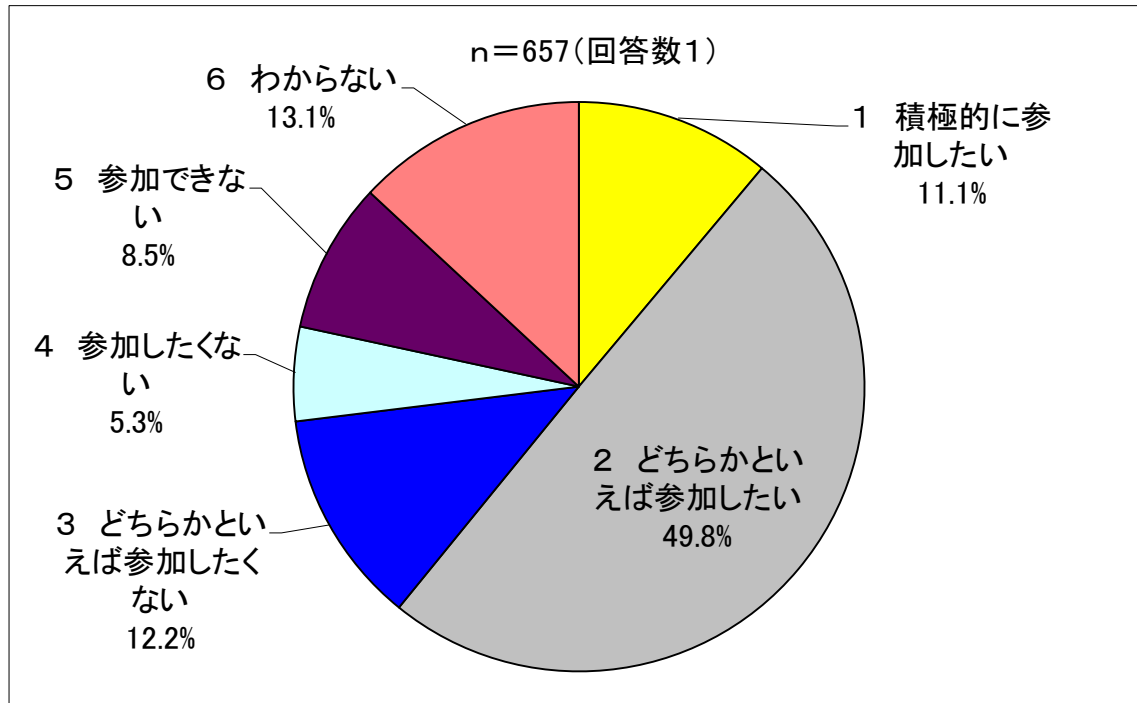


問5 県では、今後おおむね20年間に実施する「治水」、「利水」、「環境」、「地域との連携」に関する具体的な「川づくり」の内容を示した「河川整備計画」を順次策定しています。その計画策定段階で、日頃から川と接する機会の多い流域住民の方々を対象としたアンケート調査を実施し、意見を反映するよう努めています。

あなたは、県が実施するアンケート調査に対して、最も答えやすい（実施してほしい）と考える手法は何ですか。（回答数は1つ）



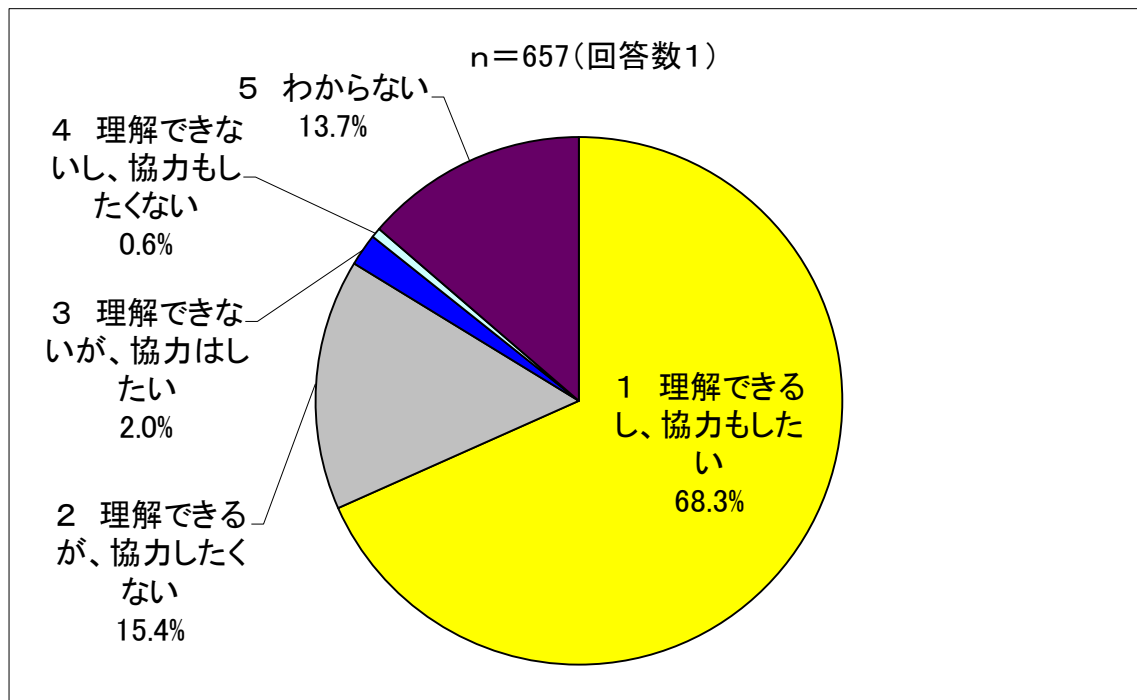
問6 近年、河川流域の美化活動や環境学習など、地域住民による交流・連携活動が様々な形で行われていますが、あなたは今後、このような活動に参加したいと思いますか。(回答数は1つ)



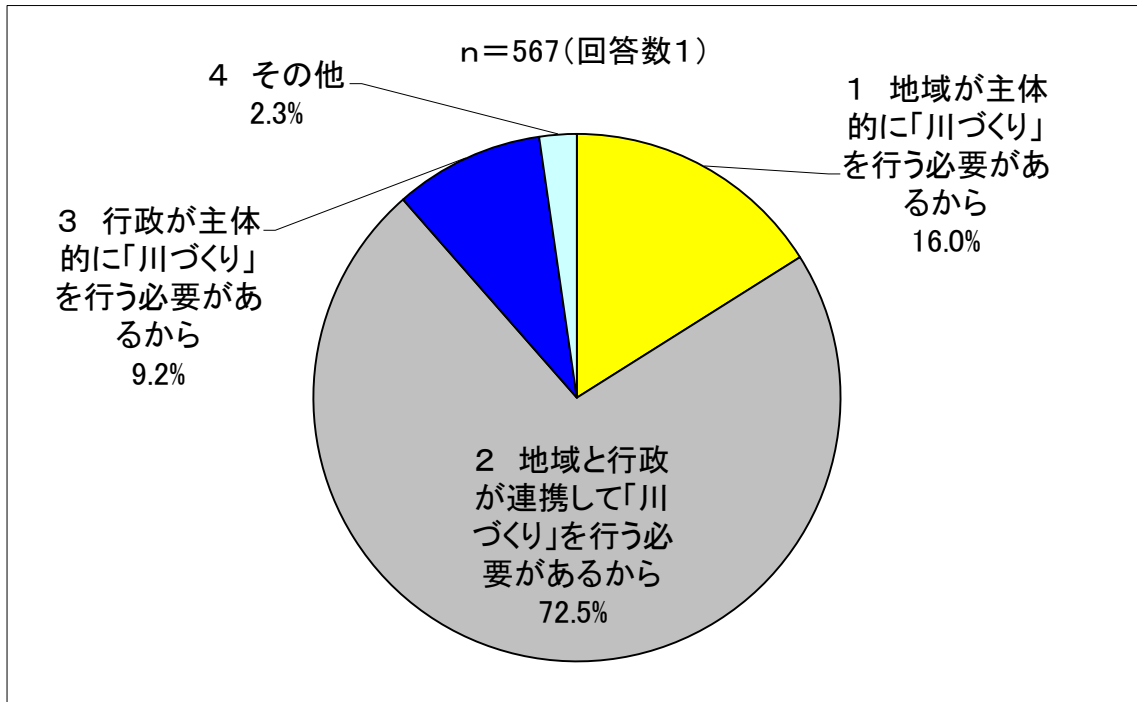
問7 近年、川は、地域住民に憩いと安らぎを与える空間であるとともに、ウォーキングに代表される健康増進の空間、世代を超えた人々の交流が図られるコミュニティとしての空間、身近に自然を体感できる空間などとして注目されています。

このように、常に住民に親しまれる河川空間であり続けるためには、行政のみならず、川と接する機会の多い、流域で生活される地域住民の方々の「川づくり」に対する理解と協力が必要不可欠だと考えています。

あなたは、「川づくり」に対する地域住民の理解と協力について、どのようにお考えですか。(回答数は1つ)

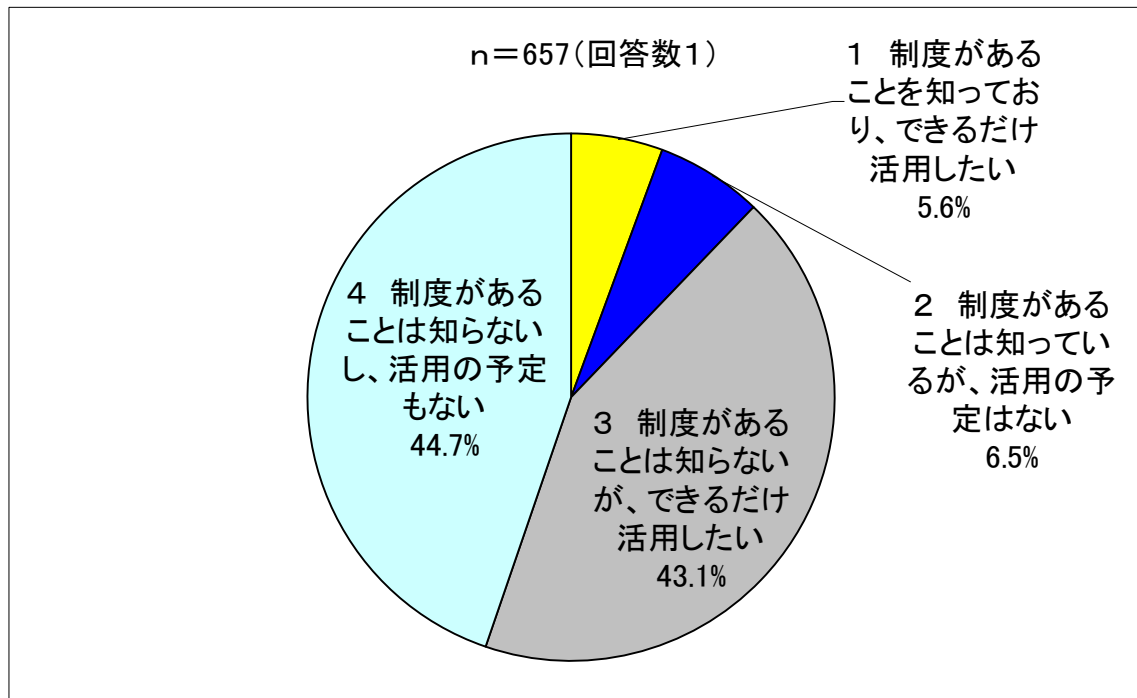


問7-2 問7で選択肢1から4を選択された方に伺います。その理由は何ですか。
(回答数は1つ)

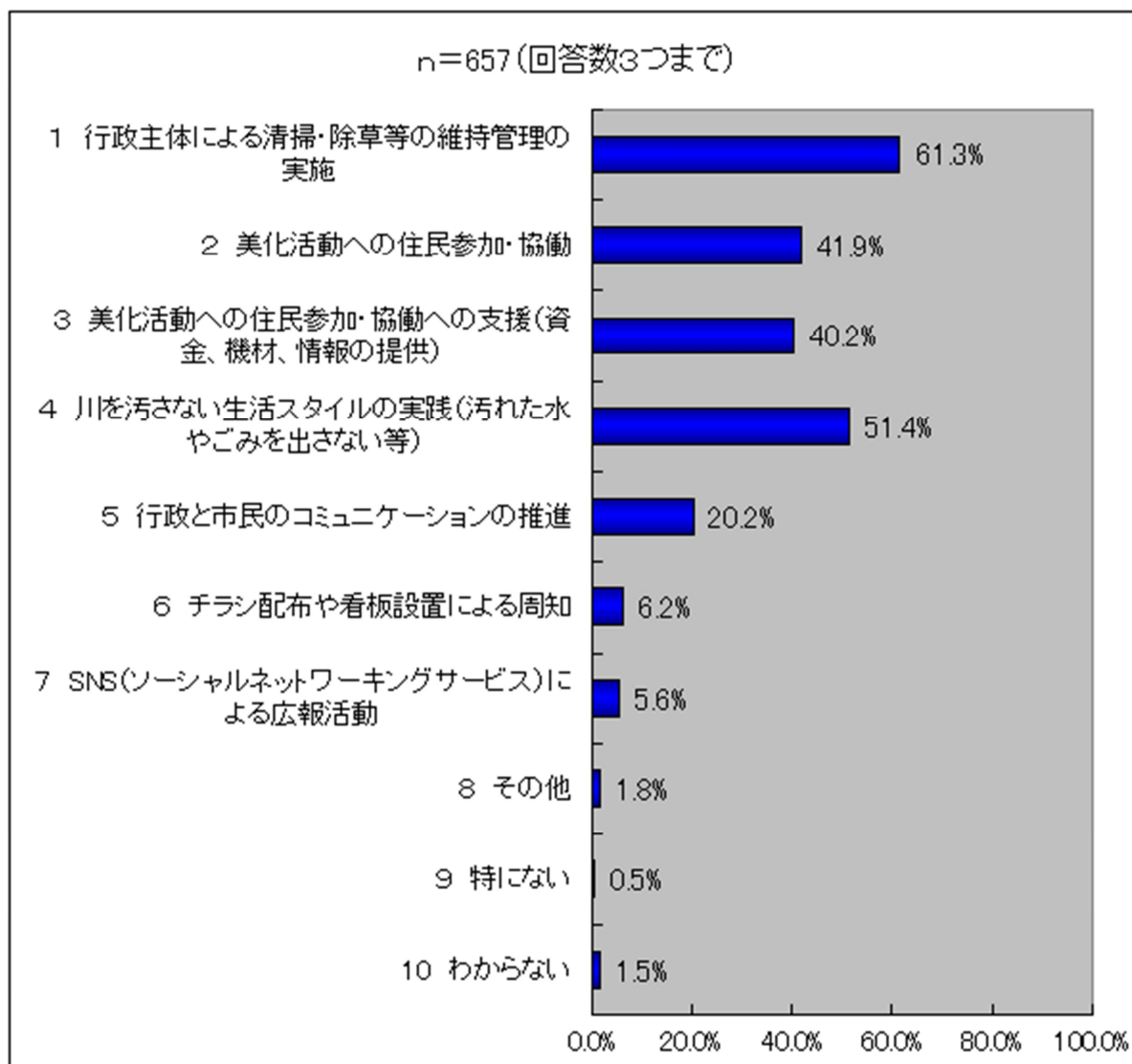


問8 県では、自治会等で行われている堤防除草等の河川維持活動に対して「リバーフレンドシップ」という助成制度を設けています。この制度は、県、市、地域の3者が「リバーフレンド」として同意書を交わし、県や市町が地域の河川愛護活動などに対して助成を行う制度です。

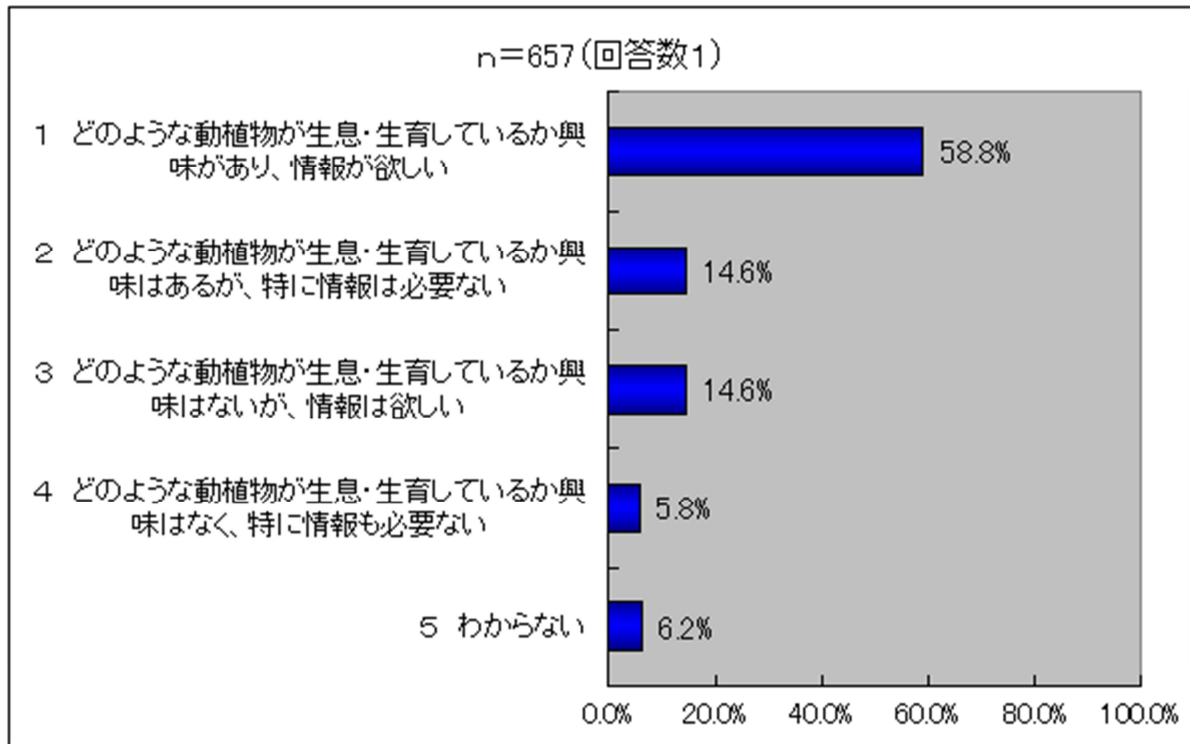
あなたはこの制度をご存じですか。(回答数は1つ)



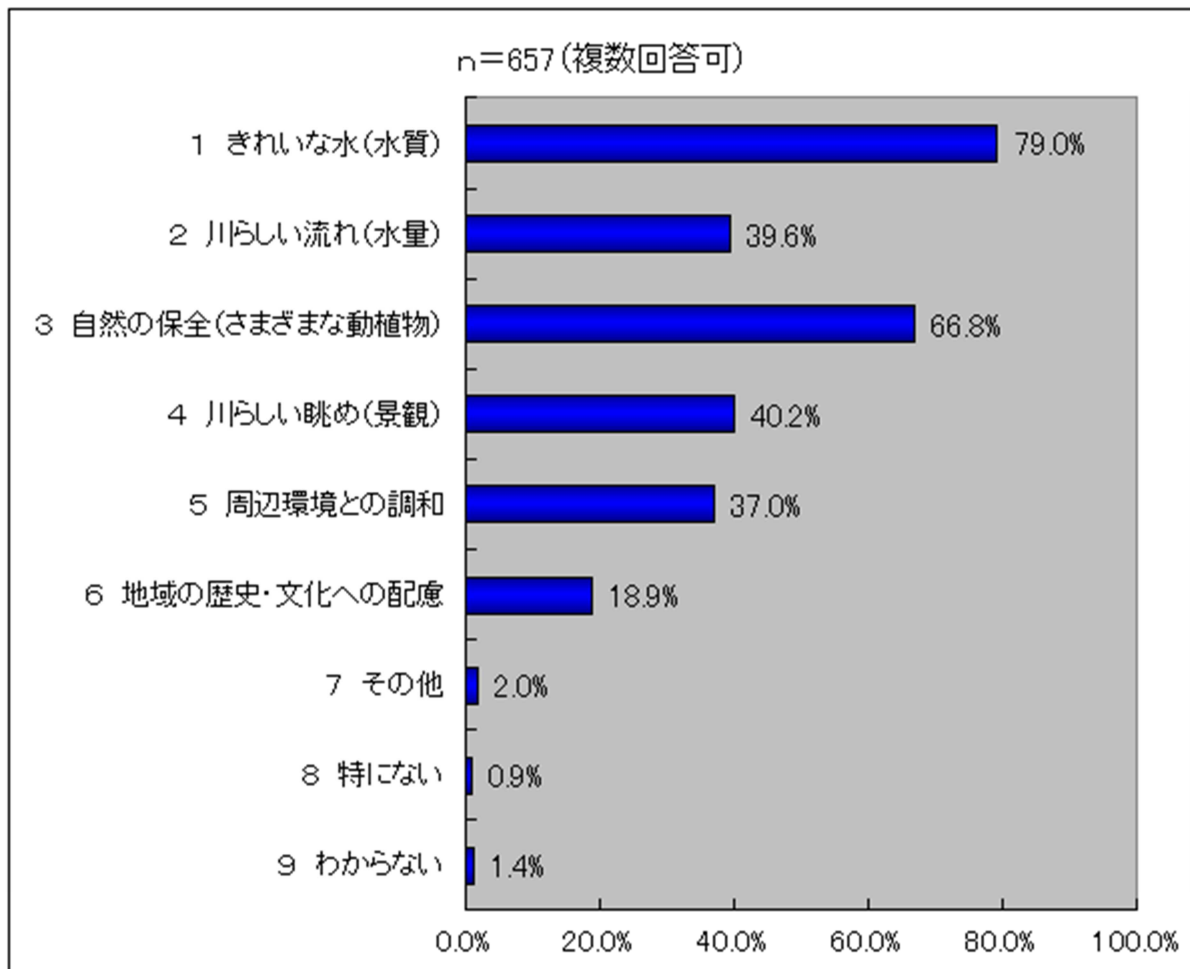
問9 身近な川を美しく保つため、川や堤防のゴミ掃除、草刈などの作業について、重要なことは何だと考えますか。(回答数は3つまで)



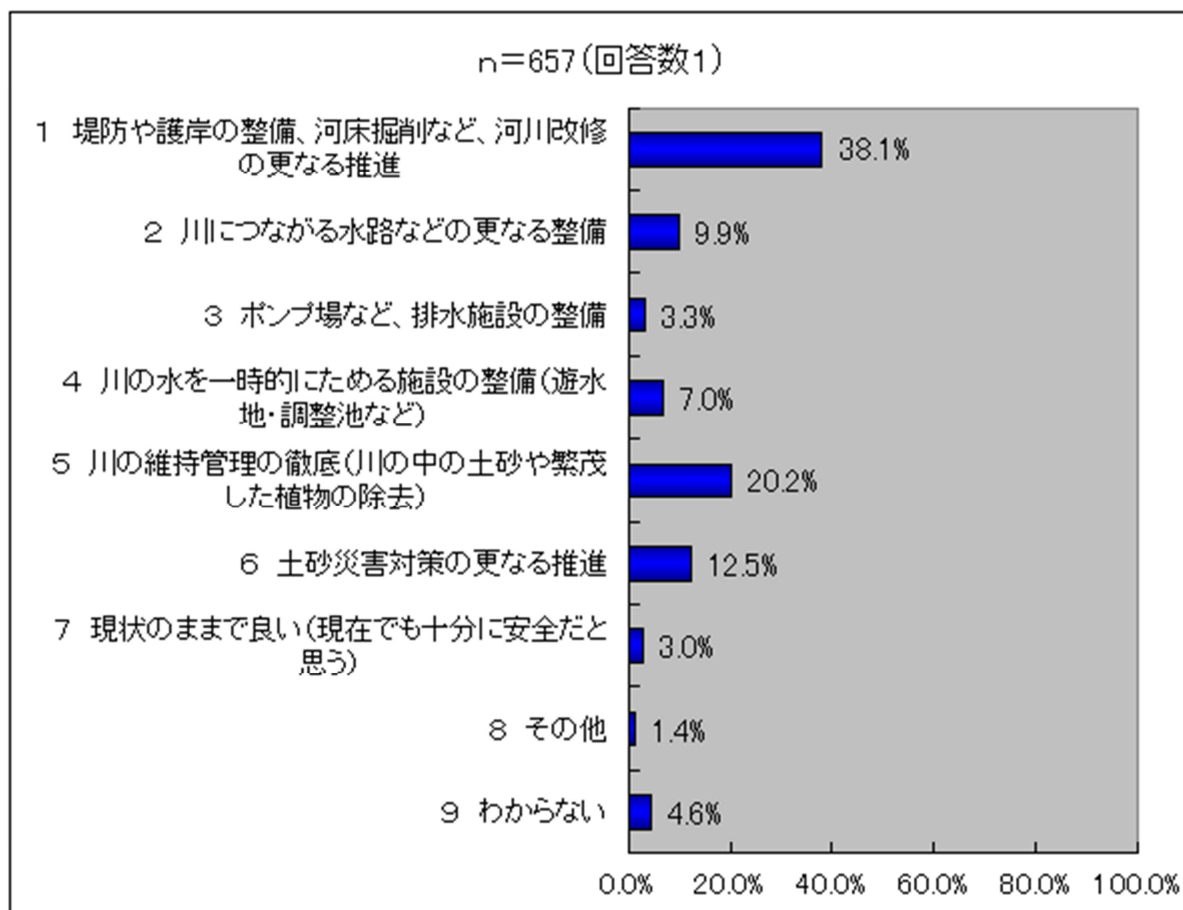
問 10 「外来生物法」の施行以降、川本来の生態系を脅かす外来種や移入種（ブルーギル等）の広がり注目されています。あなたは、最寄りの河川に生息する動植物についてどのようにお考えですか。（回答数は1つ）



問 11 今後、身近な川について河川環境に配慮した整備を行う時に、あなたが特に気にかけてほしいことを教えてください。(複数回答可)

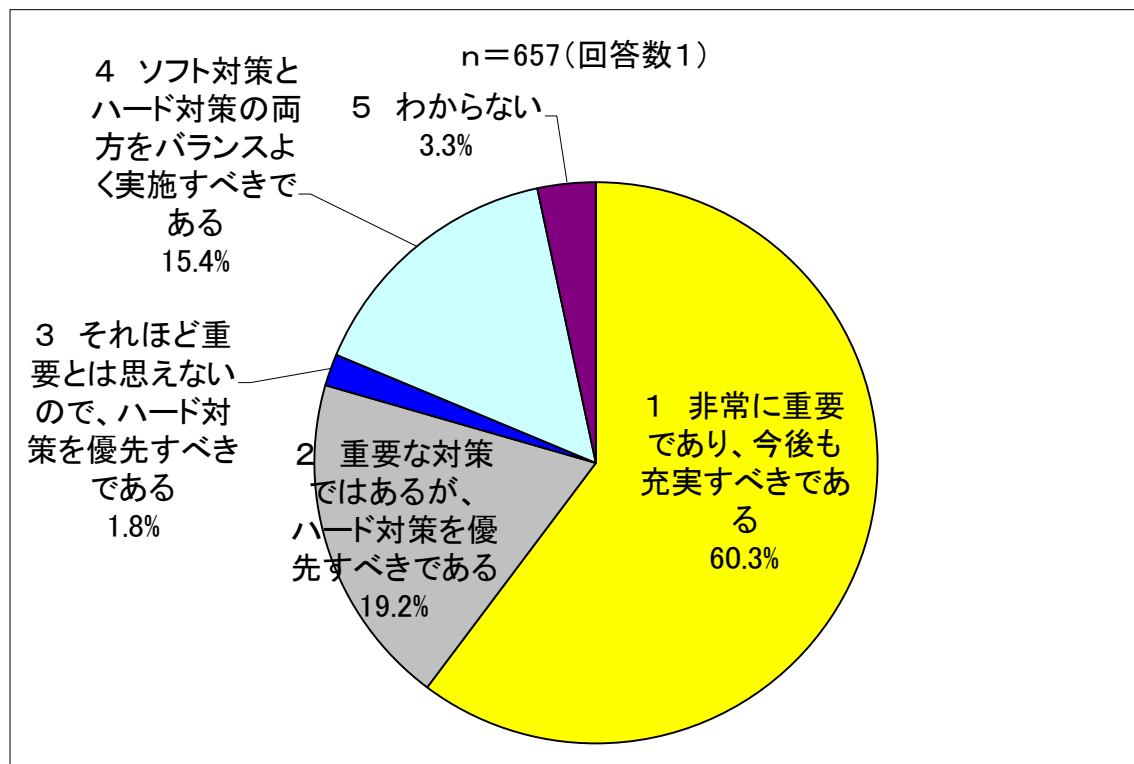


問 12 身近な川の洪水や流域内の浸水などによる水害を防止するための施設として、
今後はどのような対策（ハード対策）に力を入れていくべきだと思いますか。（回
答数は1つ）

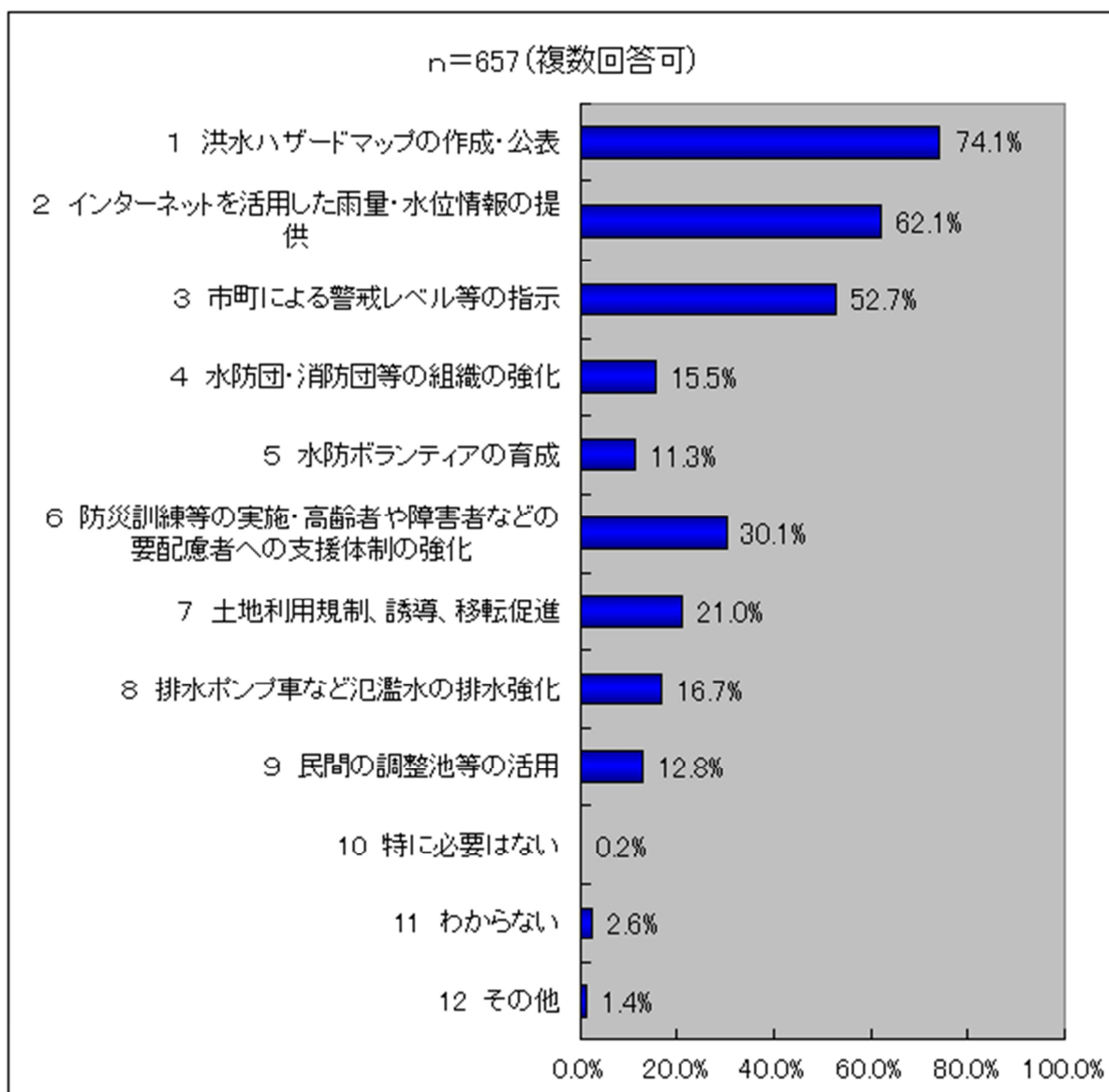


問 13 近年の豪雨による甚大な被害を受けて、「施設の能力には限界があり、施設では防ぎきれない大洪水は必ず発生するもの」と意識を変革し、社会全体で洪水に備えることが必要になっています。それに伴い、河川管理者が実施する河川改修などの「ハード対策」に加え、県民の皆様自らが生命・財産を守るために活用する洪水ハザードマップなどの「ソフト対策」の重要性が高まってきています。

あなたは、この「ソフト対策」をどのようにお考えですか。(回答数は1つ)

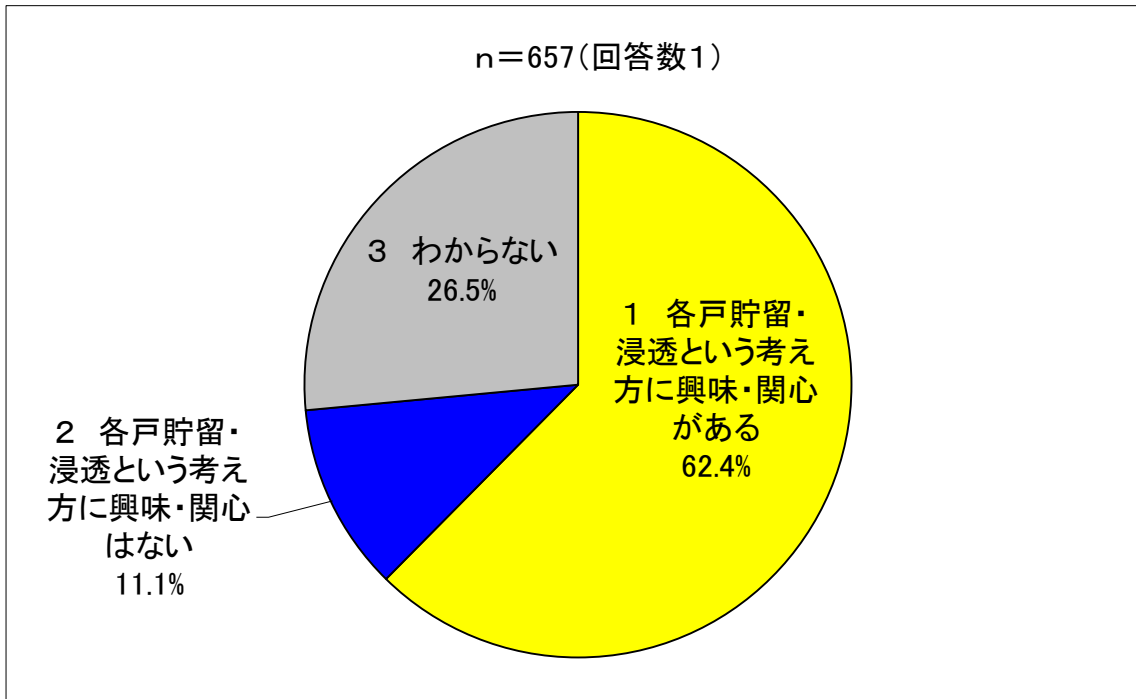


問 14 ソフト対策には以下のようなものがありますが、あなたが効果がある・重要であると思う施策を次のうちから選んでください。(複数回答可)

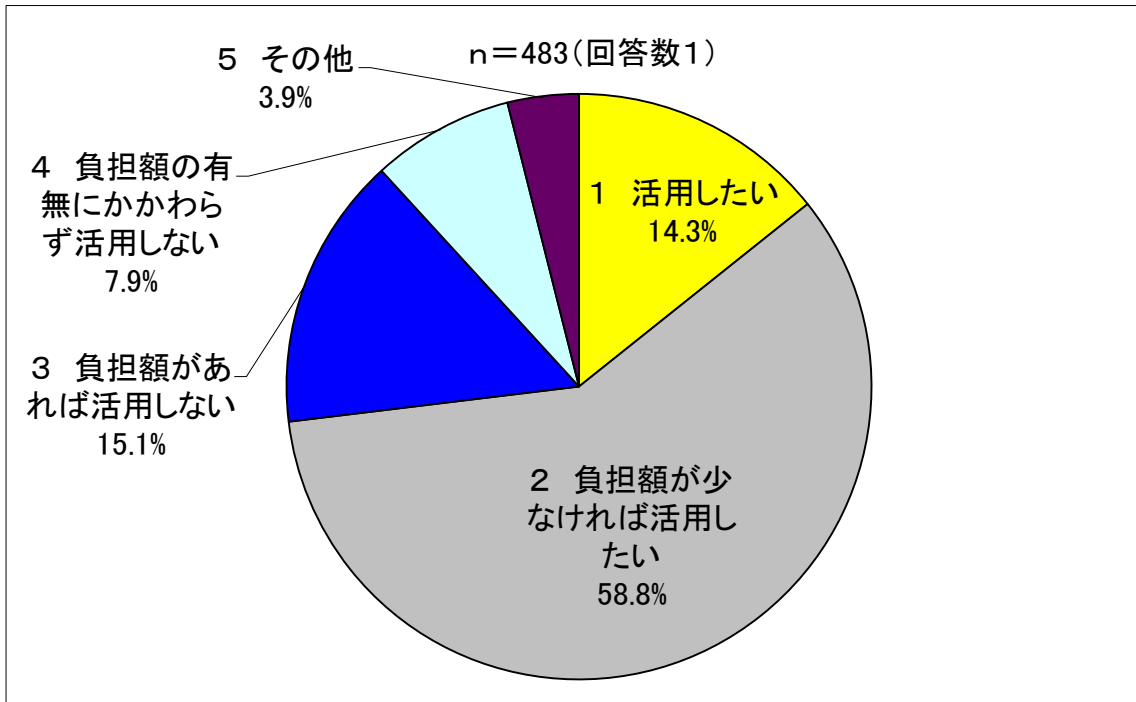


問 15 近年の局地的な集中豪雨では、河川の大きさなどの規模にかかわらず、周囲と比べて低地や窪地となる箇所では地形的な要因により家屋が浸水する被害が増えています。県では、こうした浸水がたびたび発生している区域の被害を踏まえ、関係市町と連携して、個人のお宅などに雨水を貯留又は浸透する施設（各戸貯留・浸透施設）整備を促進するなど、総合的な雨水排水対策を検討しています。

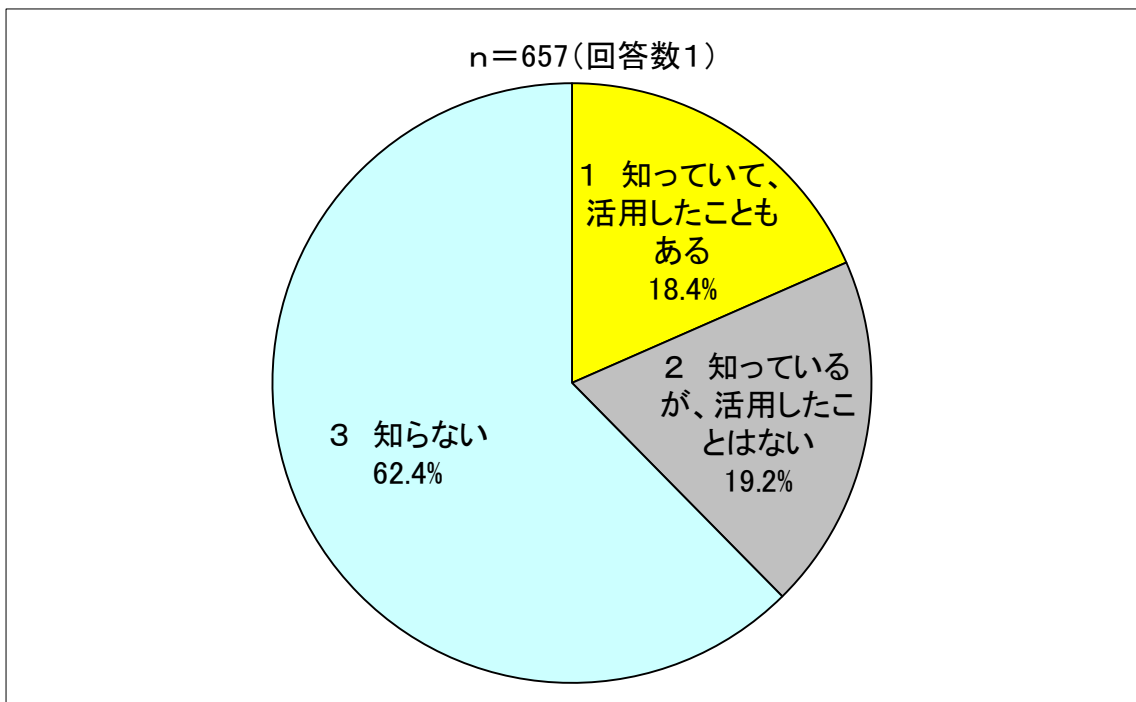
あなたは、このような行政の取組について興味・関心がありますか。（回答数は1つ）



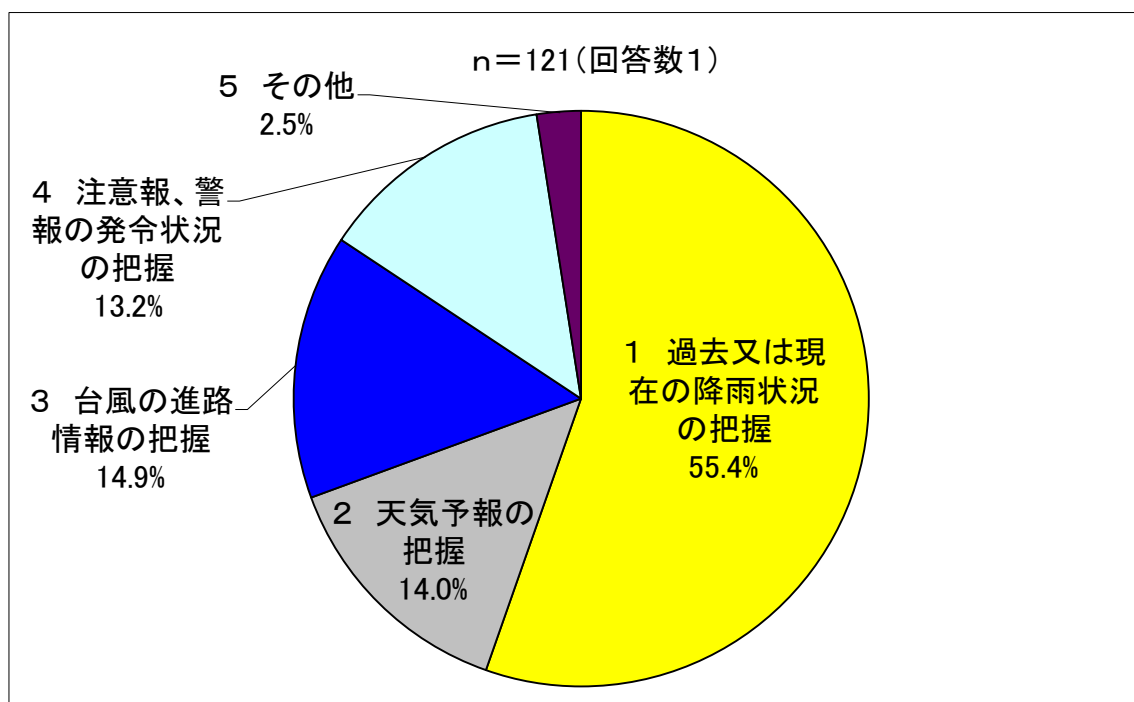
問 15- 2 問 15 で選択肢 1 又は 2 を選択された方に伺います。各戸貯留・浸透施設を活用したいと思えますか。(回答数は 1 つ)



問 16 県では、防災情報発信サイト「サイポスレーダー」(<http://sipos.pref.shizuoka.jp/>)により、国土交通省及び県が管理する各観測所の雨量や水位情報等を提供していますが、あなたは、このことをご存じですか。(回答数は 1 つ)

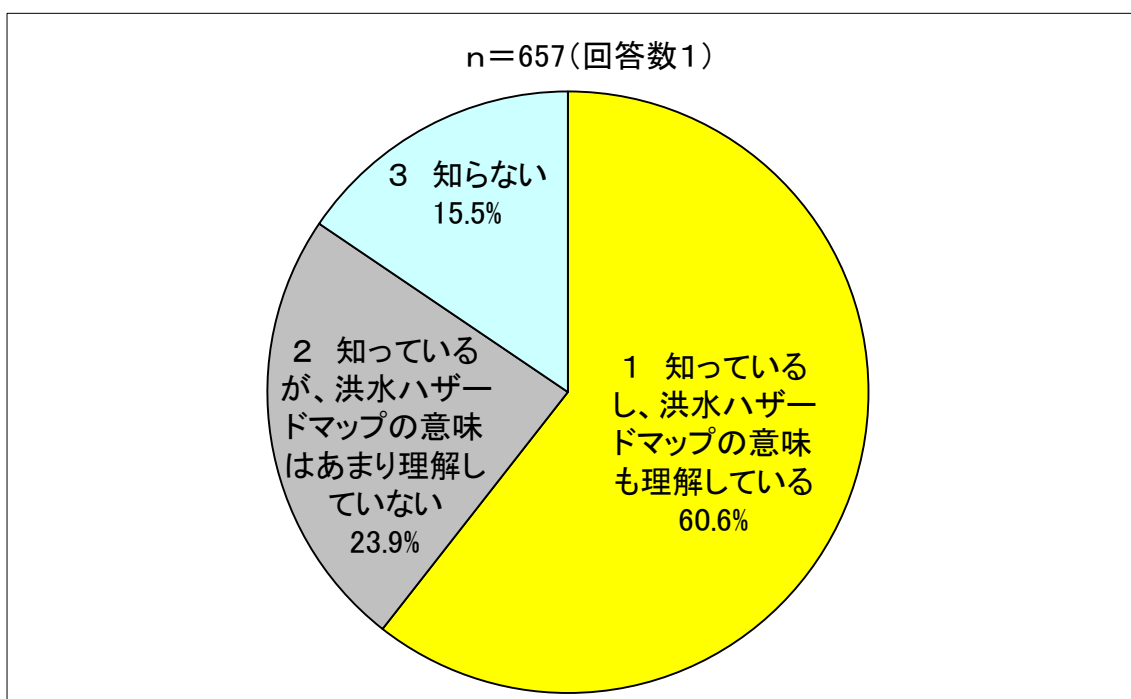


問 16-2 問 16 で選択肢 1 を選択された方に伺います。あなたは主にどのような目的でサイポスレーダーを利用されましたか。(回答数は 1 つ)

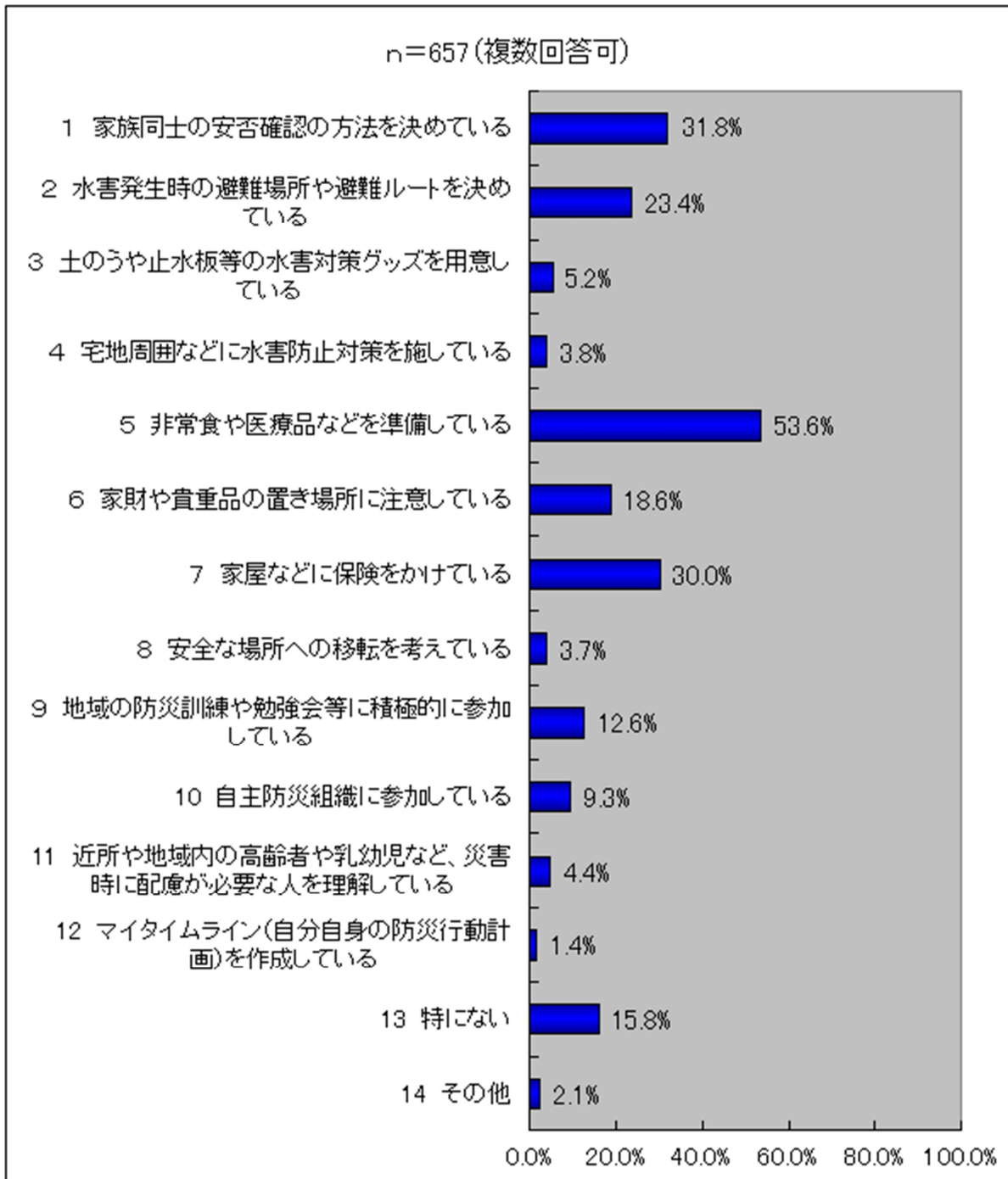


問 17 近年の豪雨災害において、流域住民の方々の避難行動の促進や防災意識の向上を目的に、河川が氾濫した場合に想定される浸水範囲と想定浸水深、避難場所などを示した「洪水ハザードマップ」の重要性が高まっています。

あなたは、この洪水ハザードマップをご存じですか。(回答数は 1 つ)

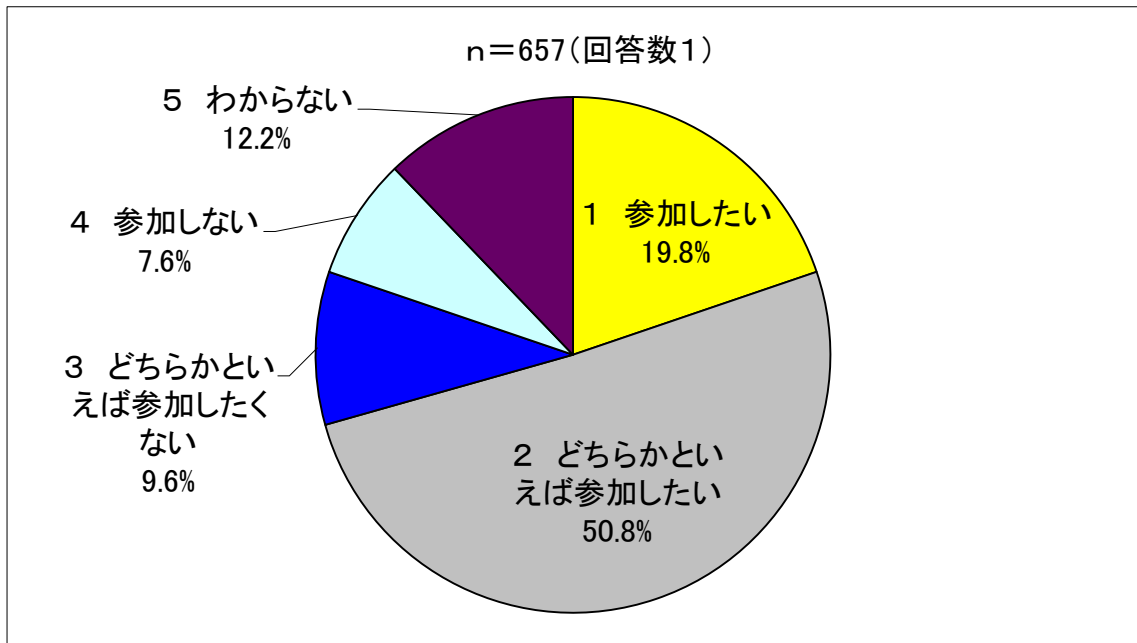


問 18 身近な川の氾濫などによる万一の水害に備えて、個人や家族で日頃から心がけていることはありますか。(複数回答可)

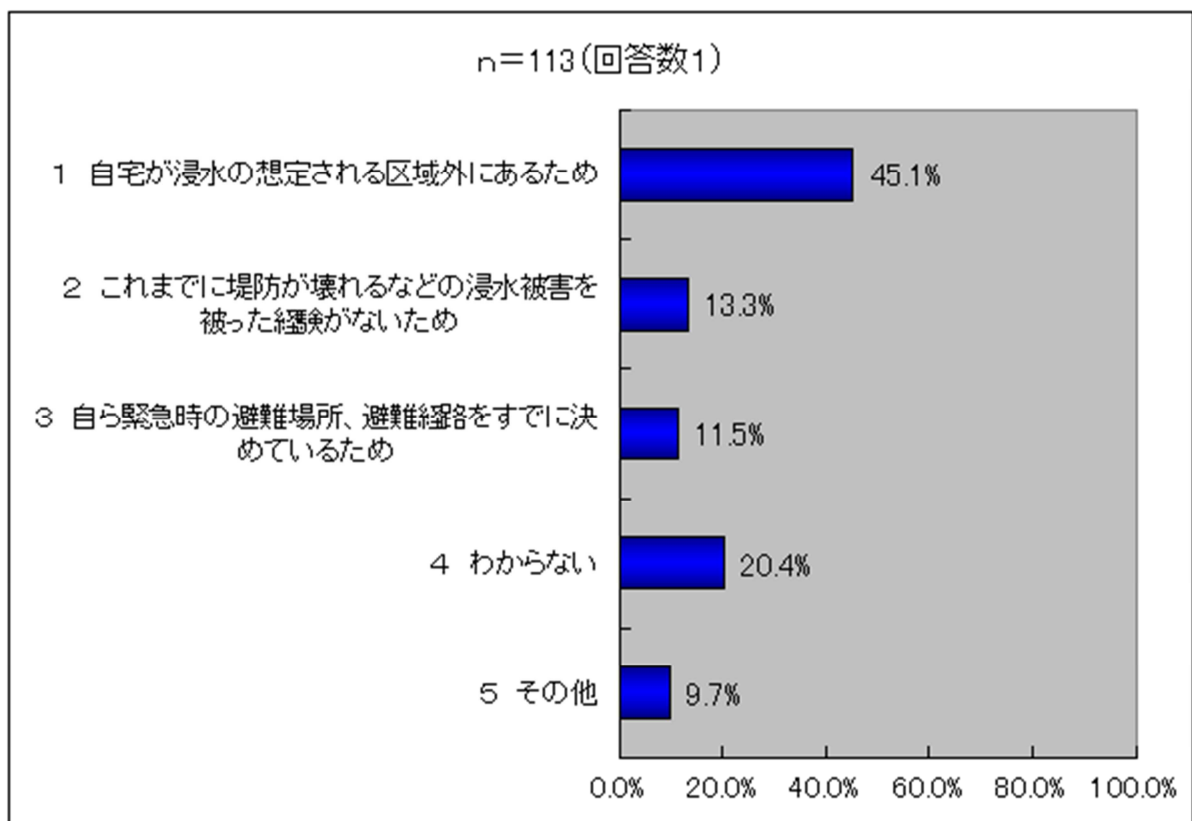


問 19 「洪水ハザードマップ」は、配布されても、その重要性が認識されないまま、有事の際に役に立たなかったという事例も少なくありません。そこで、最近では、「洪水ハザードマップ」を活用した防災訓練の実施など、市町による配布後のフォローアップが重要視されています。

あなたは、洪水ハザードマップを活用した防災訓練や災害図上訓練などが実施された場合、参加されますか。(回答数は1つ)

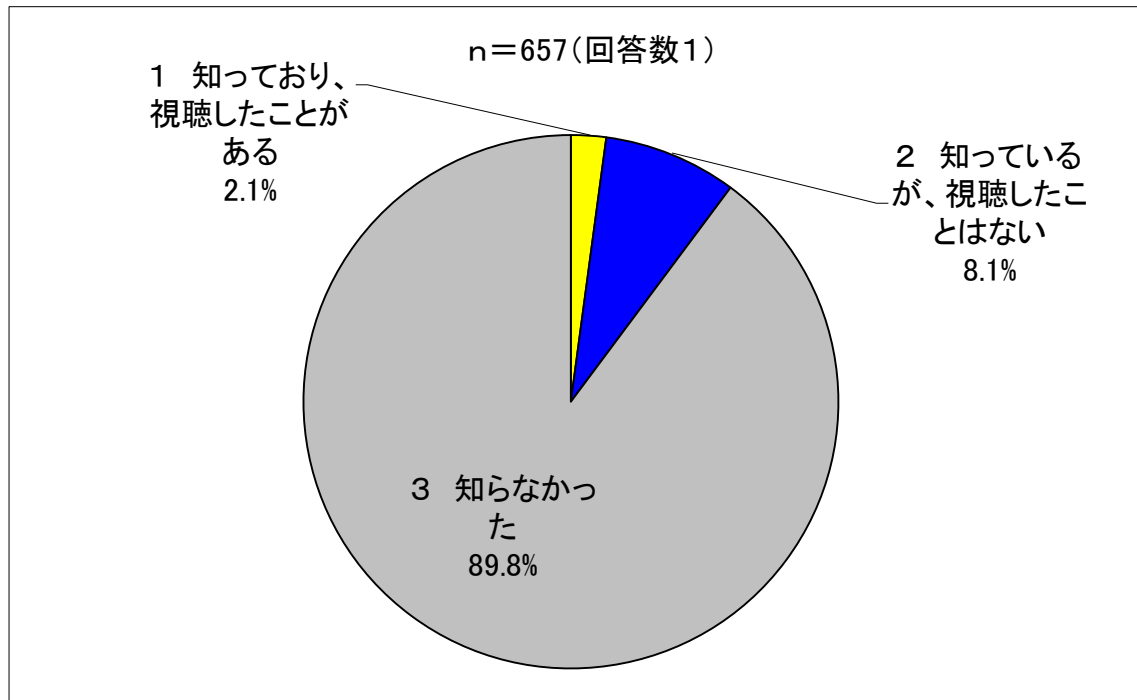


問 19-2 問 19 で選択肢 3 又は 4 を選択された方に伺います。なぜそのようにお考えですか。(回答数は 1 つ)

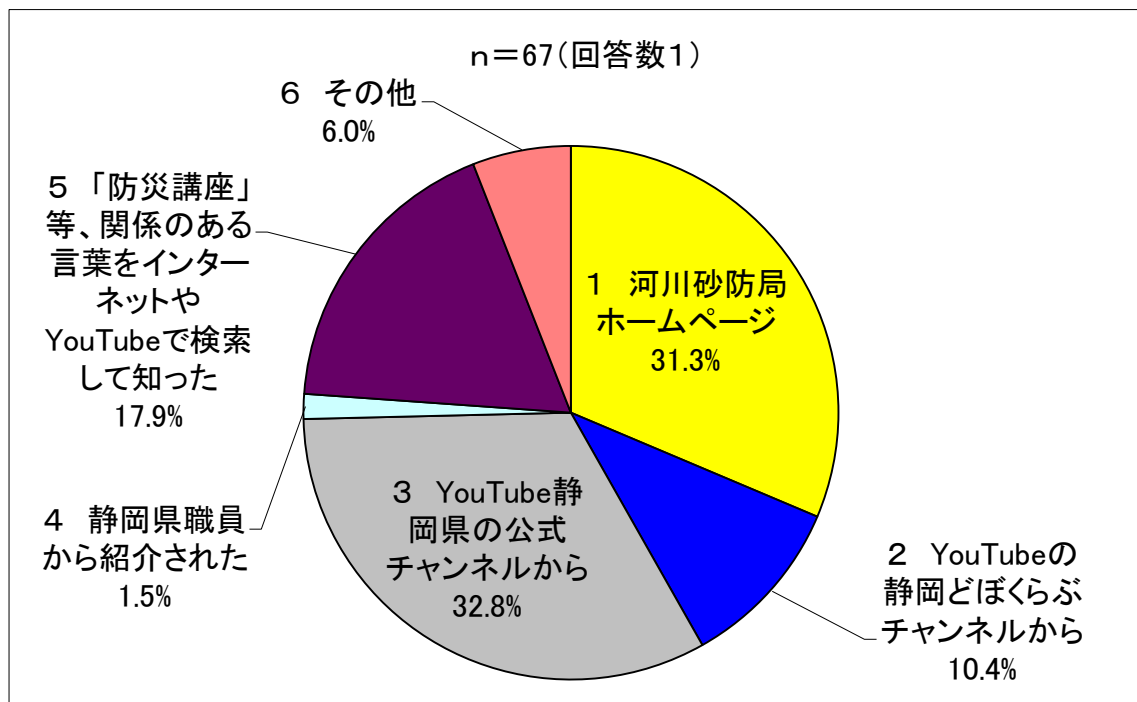


問 20 令和 2 年度から交通基盤部河川砂防局では、逃げ遅れゼロのための取組として水害リスク情報の共有や、避難に役立つ情報等の発信として若手職員が中心となって「防災講座」を作成し、YouTube で配信を行っています。
あなたは、このことをご存じでしたか。(回答数は1つ)

※河川砂防局の YouTube 動画（初回）はリンク先から御覧いただけます。
(https://youtu.be/zClacGtU_IE)



問 20-2 問 20 で選択肢 1 又は 2 を選択された方に伺います。あなたは動画をどこで知りましたか。(回答数は 1 つ)



問 21 河川の「川づくり」について、御意見等がありましたら、御自由にお書きください。(500 字以内)

担当課 交通基盤部河川砂防局河川企画課
TEL 054-221-3038
FAX 054-221-3260
メール kasenki@pref.shizuoka.lg.jp